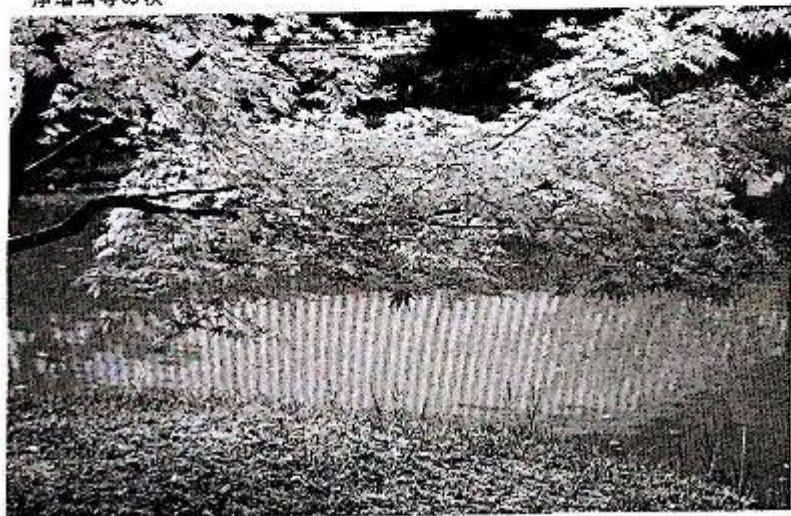




浄瑠璃寺の秋

晩秋の装い
 桜 風の落葉樹
 まばゆいばかりの紅葉の海
 山腹を染める絢爛たる色の鼓洞
 西 朱 絳 唐紅
 琥珀色 からし色 かげ色
 さまざまの葉がはなやぎながら
 山はだに錦織を綴る
 澄みわたる空
 爽やかな風
 かすかに聞こえる
 晩鐘の響き
 落ち葉をそっと踏みながら歩く
 青空に浮かんだ紅葉が
 逆光を受けて輝く



燃えるように鮮やかな紅葉

Photo essay

もみぢ

題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵一



やわらかな秋の陽ざしに映える紅葉

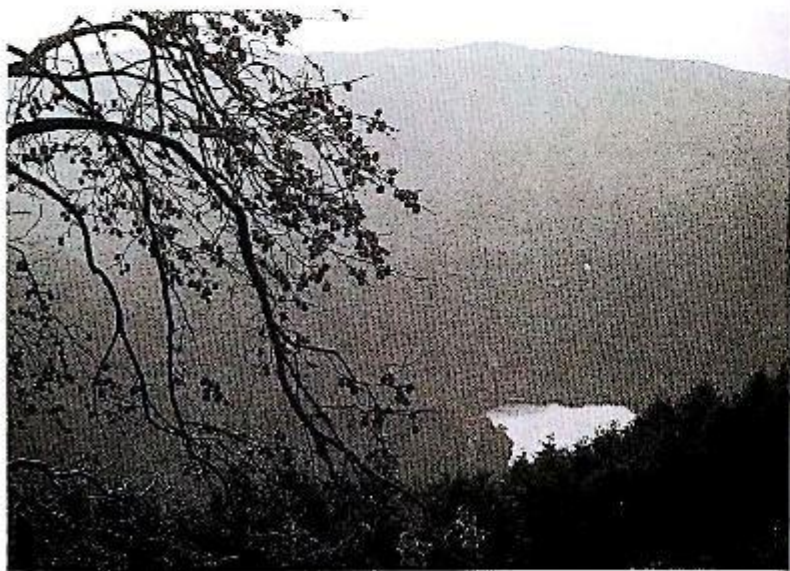
季節の



晩秋のトンボ



朝の散歩

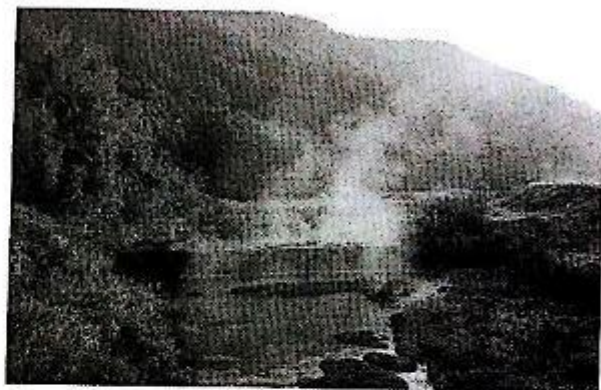


ダム湖浅瀬

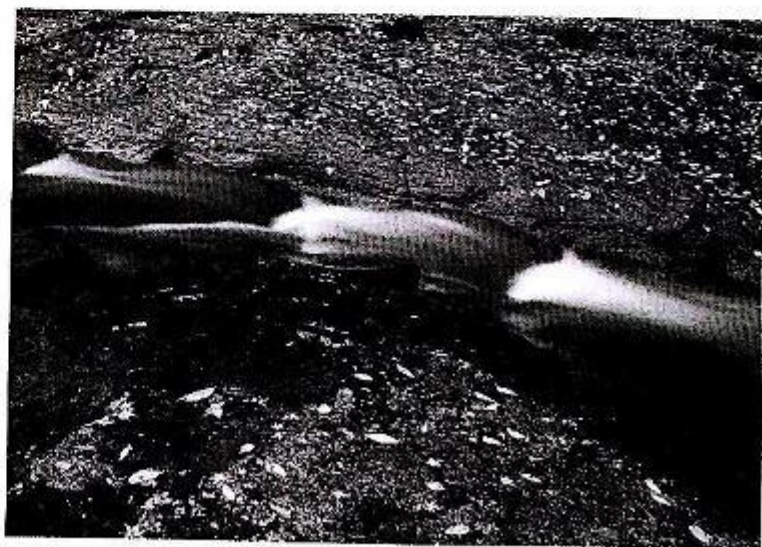
実景

撮影 武市通治

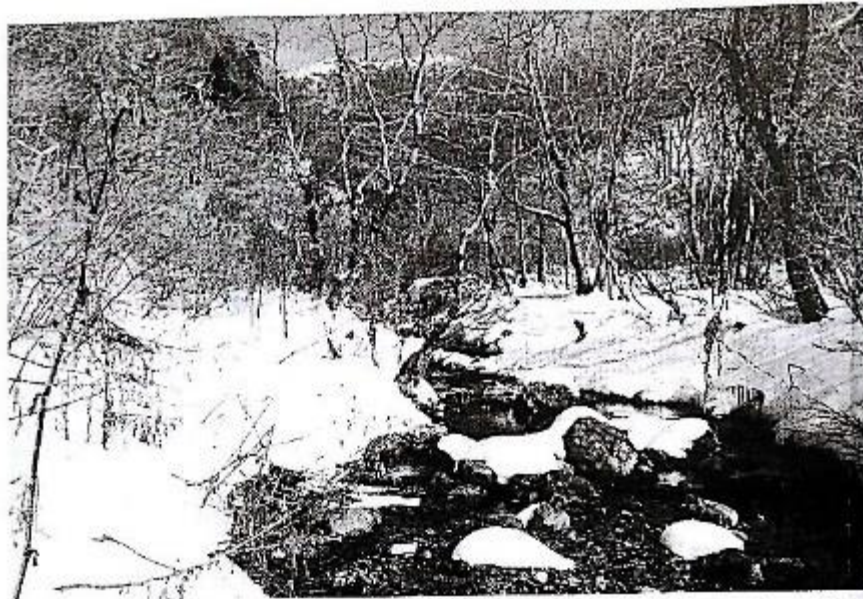
晩秋



朝霧



落ち葉



口の深谷より武奈ヶ岳を望む (比良)

松田 敏男



宮指路岳より總向山を望む (鈴鹿)

松田 敏男



武奈ヶ岳西南稜 (比良)

松田 敏男



新雪の雨乞岳を登る (鈴鹿)

松田 敏男



黒谷青龍寺

前山 發

その昔、浄土宗の宗祖、法然上人が修行した黒谷青龍寺は、比叡山建禮寺の西、黒谷の谷奥に位置している。

天台宗の延慶寺に属する青龍寺だが、浄土宗の聖地でもあることから、浄土宗が管理運営している。このことは、年ほど前に梅辻昭吉師から教わった。

師は京都東山山麓の隆慶院(淨土宗)の住職であり、浄土宗尼僧道場の教授としても活躍中である。当時、私はヒシネスで隆慶院を訪れていたのだが、ある日、「山歩きをはじめました」といふので、お話を伺った。

「八潮から青龍寺へ登る黒谷越えの道を知っていますか」と尋ねられた。国土院院の地形図に線が引かれているのは知っていた

が、まだ歩いたことはなかった。「とても急な坂道ですが頑張って歩いて下さい」と励まされた。

それ以来、何度も登山道と黒谷越えの道を登り、黒谷寺を訪れるうちに、小僧住職と話す機会を得た。

住職は千宗の天台形制だが、淨土宗本山の御願院から依頼されて青龍寺に求められた。

黒山学院と仏教大学を卒業されているが、梅辻師が教鞭をとる浄土宗尼僧道場でも修学されたとか。「天台の私を快く受け入れていただくなど梅辻先生にはお世話になりました」と、感謝しておられた。そして道場への入門の動機を、「浄土宗が好きで勉強をしたかったから」と語ってられた。

古来より天台宗に属々と思づく浄土宗へのあこがれは、古くは恵心の『往生要集』となつて著せられ、その影響を受けて法然や親鸞などの口耳が誕生し

た。住職にもそんな天台の伝統が受け継がれているのだろう。7月中旬の暑い日に、黒山学院を登って青龍寺に着いたら、古道のコピーを頂戴した。お願いしていたのを覚えて下さったものだが、コピーは一枚あり、

「比叡山の古道について(調査報告)」と題した一枚には、更に詳細な道が記載されている。道の名称、距離、保任状態や行儀、名所、旧跡などが一覧表

になっていて、市販の関連書には記述のない名称や地名なども多く、調査された方は、おそらく黒山文庫などの古い資料を調べられたものと思われる。これだけで十分なことになる。二枚めのコピーには、その訂本の進め方や千宗の進退上に京明に記入してあり、巻末まで記されている。これは私の宝物だ。谷や記帳を細目のように走る比叡の古道を見ていると、何年かかってまで踏破したい、との思い



随想 (山のエッセイ)

を強く持った。

さて、黒谷だが、梅川の安楽谷谷とも、別所と呼ばれていて、いわゆる十六谷とは区別されている。十六谷を首字とすれば、二別所は私学といえよう。私学の黒谷では、今でもいうような教習が許されていたようである。念仏に傾倒した時期もあれば、密教が盛んになった時代もあったと伝わる。

この谷は法然をはじめとした逸材を輩出した。融通公弘示の開祖で、落北天原に米野院を建立した真忍や、坂本の西教、寺で天台真盛宗を創始した真盛、そして法然の師で、念仏が密として密名を懸念など、後多の密教を生んだことは、黒谷が誇る歴史だ。

現在の青龍寺は、僧長の遺跡の後に再興されたものだが、本堂にはすぐれた木像が多い。中庭には、法然の青年期の座像があり、雨の日にはビニールの

合羽がかけられてあり、四角者の優しい心意気が伝わってくる。

道は、教習所前の登山口バス停から登り、べんてつ千手観音の分岐を右にとれば、迷うことなく青龍寺に通ずる。約1時間の道のりだ。登山道はなおも途びる。本堂の右側の紅葉の裏から谷に下りて、ジグザグ道を登ると、三休亭から五分ほど南へ来た所の横断に続く。この急な細い道は、人とはまず出会わないが、熊やヤマトリなどとよく出会う楽しい道だ。また、青龍寺の山門を出て、長い石段道を登ると、ドラゴンブリューに向かっただけやかに上る道があるが、これが青龍寺道だ。環境堂や正教坊を経てドライブウェイまでは30分ほどだ。

林道の青龍寺道だが、一番は樹林の中で、四季を通じて鳥たちの鳴き声が絶えない。比叡山を代表するプロムナードといえるだろう。

ナミヤンの泣き坂

田中 新一

このような坂の名前をご存知の方はほとんどおられないでしょう。この山はアルプスの白馬三山のひとつ、黒馬岳西麓にある大門沢下降から、大門沢小屋に至る長い急坂のことです。

昔、ナミヤン、と呼ばれる女性がこの坂を下ったとき、現在のコモキ沢と大門沢のY点につきあたり、道がなくなつて彼れも加わつて動きがとれなくなり、泣き出したというそうです。

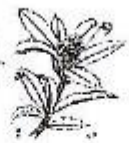
この話は、今夏(7月20日、30日)私が七十歳になった記念に単独で白馬三山を登り、8日目に大門沢小屋に着いたとき、小屋の主人の深沢文雄氏から伺ったものです。この主人は大変な話し好きで、夕方私たちが部屋に坐りこんで、奥さんが



「夕雲の雲間に忙しい」と呼びにきても、「ワシもお客さんと括するのには忙しい」と言ひあうような愉快な人では、この泣き坂の名も、山頂社の地因にはまだ頓っていないので、いずれば秘せてもウソも言ひださずおられた。ガイドブックでは、この大洞沢、陸奥から磐城間湯泉までの下り時間が三時間と記されており、私もちょうどその段かかりました。おそく上りは三時間以上の重アルバイトだと思われまふ。

次に、長い急坂で思い出しましたが、私は北アルプスのまだアルペンルートができる以前に、現在の高瀬ダムから湯沢を渡り鳥相子小業までの、通称「ブナ立の急坂」を登りました。ガイドブックでは七頁から八時間と記されており、当時私もその位かかって、さらに鳥相子岳を往復した記憶があります。

次にもうひとつ、同じく北ア



ルプスの三原連を山から歩いて登つたに夕方近いとき、頂上小隊が宿営をしていなくて、仕方なく夕食抜きでくりや谷の急坂を横切り湯泉まで下りました。途中で日ごとおりずれ、岩壁を緩れがひどく、仲間たちは坐りこんでしまい、私ひとり下りましたが、横見に苦いたのはなんと夜中の一時を過ぎていました。急いで宿の人に頼り飯を作ってもらい、それを持ってまた登り返しました。最後の人が無事下山できたときは、もう夜が明けていました。このコースも登り時間、下りも時間の隙隙と記されています。しかし私も若いときだったので、翌日は槍ヶ岳へ登り、奥穂高岳まで縦走する覚悟がありました。

衝撃吸収素材中敷

松尾 勉三郎

昭和62年7月、比良・武奈ヶ岳から西面横切り御堂山を下つて樹林帯に入った辺りで、かなりの人数のグループに追いつかれました。道が狭いので追い越してもならず、といてこのままついて歩いていったのでは、最終バスに遅れてしまいます。そこで、最寄りのサブリタイの人を事情を話すと、隣座の方から道をゆずってください、前まで出ることができました。

それから飛ばしに飛ばして、明王院の境内に入った時には時間でした。本堂の横で、石段が四、五段ついた高さの石垣を、またぐように眺めおられた時、左の膝がコロンと音がしたように感じた感じが、別に気にもしません。



随想 (山のエッセイ)

ちんでした。ところが三条が坂でバスを降りたとき、大橋が崩れているので、それで大橋を引きずるというなく、家に帰りました。急坂、立ち上がりをするところ、歩いて、歩くことができません。腰を浮かすと痛みはありません。整形外科で、「整形外科腫瘍腫瘍」と診断され、「関節の骨と骨の間に入っている軟骨のクッションがすり減って、骨と骨が接触するから痛いのです」と言われ、薬をもらって帰りました。

二、三日すると腰が忘れてきました。病院へ行くと、「水が溜まっている」と、注射器で水を抜きましたが、その痛いのにはまいました。

病院治療二か月ほどで、歩くのが楽になりましたので、スボラをかかして遊園地を止めました。それが好きだったのかどうか判りませんが、影れていた膝が自然にしぼんできたのです。水抜きは痛さから解放されると大層

びました。比良山から半歩あまりで痛みはなくなり、リハビリのつもりで近くの山へ行きました。が、下りになるとまだ痛みがありました。私の登山靴は旧式の革のブーツ靴ですから、革の中敷をウレタンスポンジのものに取り替へ、踵の下を少し厚い目にして、大分楽になりました。その時、以前に仕事で使ったことのある「衝撃吸収素材」を思い出したのです。厚さ二、四層のゴムのような素材で、このシートで湯球を包んで、金槌でたたいても湯球はわれないのです。

靴に入れて置いて跳んだり四股を踏んだりしましたが、具合がよくなりました。この中敷に、靴が入っているのに気がついたら、中敷が壊れていました。すり減って穴があいていました。今のものは、白のウレタンソールの足先と踵の部分にソルゲインをはめたもので、一四〇〇円でした。もう六年になりましたが、今は何の不安もありません。

腰・膝・足などの疾患に不安のあるお友、果に困っておられるお方におすすめします。大きなスポーツ用品店で相談してみてください。誠意では敬っています。

〈参考〉ソルゲインというのは商標名で、この素材には三種の種類があります。①現在、関節痛を患っている人用の黄色系顆粒の顆粒に回復した。②再発を妨ぐ白剤は赤色素材。③通気・通水・立ち仕事の多い人の撥水剤種着用には緑色素材。

好望・野坂岳

多摩 雪雄

若狭



野坂岳山頂と展望盤

野坂岳北西面展望
野坂岳には15時30分に戻り、観近くの旅館に泊す。

野坂岳北西面展望
野坂岳には15時30分に戻り、観近くの旅館に泊す。

野坂岳北西面展望
野坂岳には15時30分に戻り、観近くの旅館に泊す。

野坂岳北西面展望
野坂岳には15時30分に戻り、観近くの旅館に泊す。

野坂岳北西面展望
野坂岳には15時30分に戻り、観近くの旅館に泊す。

野坂岳北西面展望
野坂岳には15時30分に戻り、観近くの旅館に泊す。

野坂岳北西面展望
野坂岳には15時30分に戻り、観近くの旅館に泊す。

野坂岳北西面展望
野坂岳には15時30分に戻り、観近くの旅館に泊す。

野坂岳北西面展望
野坂岳には15時30分に戻り、観近くの旅館に泊す。

全園唯一の純種約200羽を飼育して13時20分終了。

金沢市で約200羽の鶴を飼育し、住職から20羽の間、車の中へ閉じ込め、金ヶ崎宮を打撃してから、呼んだら白のタタシを連れて、美濃守の武田神社参道の御殿と、水戸天狗堂の御殿に参詣し、一万二千本もある弘法の松園を訪れる。

定善寺には、現在我が国には三箇所しかない、朝鮮の後醍醐天皇が御座り、重文の指定を受けて、法皇の御座りに納められている。天皇の御座りその文様の美事らしき、いつまでも見飽きない美事である。

西郷守の御殿に参り、宗田氏御殿を参り、

新築の社寺と乗り継いで、正午少し前、野坂岳に到着し、空身になって北風の強風の中、大空(年々70歳)社立の気比神社に出で、昭和20年7月12日の秋賀大の戦で、焼け残ったのは重文の大鳥居だけだが、巨大な神社に静謐な気が漂い、清冷な土砂利を穿々と踏んで、一行20名は小雨の中を急ぎ、神社は北大崎、仲立天

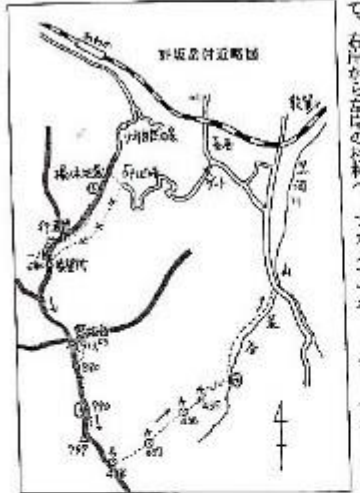
皇、神功皇后、日本武尊命、応神天皇、他、曹洞宗野坂山本願寺は、境内を高遠道新が突っ切ったために、後者はその下をトンネルで抜けて、太倉に秋賀三尊を拝す。秋賀以後の二尊を参拝した園と、現在の秋賀を参拝して、うたた感無量であったが、

が、長谷川源流にゲートがあつて入れない。と、このゲート、取から歩いて大した距離ではない登山口に向つた。

ここは、少年自然の家を左手に見て登り、赤松の配線が良いキャンプ場前に行く、立派な登山道があり、頂上まで3時間30分であった。地味・311の林道終点手前の石段道である。

そこが、車を通れる小径、ゆるやかな登りが始まり、10分程度すると、TV塔へ小道が左に分かれる。

手入れの良い松林が終わり、小道となつて、右岸から左岸の松林へ、アカノママを



わがが登った右手に(三行老松)の松園があり、そのすぐ上は野坂岳山頂となつていて、TV塔より約10分程度歩くと、山頂が合するはずだが、地形が急峻で、広い斜面を大きく歩行して15時06分(一ノ宮神社)の松園にたどり着くと、小

石段と数個のエンコ台があり、北方の展望が広く見渡せる。
曇りらしいいい水尾根の、大石がゴロゴロする道をシタダに登って、この極限をほぼ水平に越えた後、左手の南西東へ向かって、曇りらしいいい水尾根の中をゆっくり登る。
新設の遊歩小屋に10時に着いた。二階建ての木の香におもむきで、奥に縁廊を歩道し、入口と致はアルミサッシで遮断であった。
一分で野坂岳の広い湖に近づくと、3000mの水深が得られ、野坂岳の湖にたどり着く。新しい一等三角点標石(1950年)があり、縁廊を見ている。
池元の登山道が三組、あはれ何々、にちろが何々と教えてくれる。

大自然との共存 ONLY ONE EARTH

大阪駅前第4ビルに大阪支店オープン

創業25周年特別企画 **カトマンズ直行**

チャーター便 エヴェレストエクスプレス
ベストシーズンのネパール
"JALで飛ぶヒマラヤ"

締切近づく 10月20日(木)

関西新空港発着

◆11月12日(土)～11月20日(日)

成田空港発着

◆11月19日(土)～11月27日(日)

全19コース お早めにお申し込み下さい。

祝関西新空港ロイヤルネパール航空就航

◆10月30日より毎週水曜・日曜日出発

豊かな自然とのふれあい、地球にやさしい旅に参加しませんか?

- エヴェレストビューホテルスペシャル 9日間.....ネパール
- アンナプルナスケッチトレック 9日間.....ネパール
- ランタン谷クリーンハイク 9日間.....ネパール
- タウンジーシャン富原とインレー湖 9日間.....ミャンマ
- メイミョウとベイチンミャウン鍾乳洞 9日間.....ミャンマ
- モールミヤインとチャイチヨー参拝登山 9日間.....ミャンマ
- 海の桂林ハロン湾とメコンデルタ 7日間.....ベトナム
- スマトラバ湖沼とポロブール 7日間.....インドネシア
- チェンマイとゴールデンライアングル 7日間.....タイ
- 台湾 阿里山登山と日月潭 9日間.....台湾
- 韓国雪岳山と海印寺 5日間.....韓国
- 濱州島と漢拿山 5日間.....韓国
- ハワイマウナロアとマウナケア 7日間.....米国

資料のご請求は ☎0120-777802 ●全国どこからでも無料です

マウンテントラベルツアーデスク

主催 ヒマラヤ観光開発株式会社 運輸大臣登録一般旅行業1014号

東京/〒105 東京都港区新橋3-26-3 ☎03-3574-8860
大阪/〒530 大阪市北区梅田1-11-4-500 ☎06-346-0360

るが、右降するようになって歩きよくなり、郡市界線の水平線となって、右手に池を見て、11時35分、池上のピーク(7990m)に到着。以後、増曇りや赤雲が点在して、11時50分、地標・7977mに着く。頂上左下に迷霧線が見え、東方への下路ルートは、だんだんあやしくなるが、サブリーダーがどんと下って、迷霧線初路に出る。正規の道を登り返して来てくれた。地標・7977mの頂上、大木の赤ペンキより北方24mの所に小石標あり、そこに枯れ木を植えてシシ止めとし、左(京釜線)へ入るしっかりしたルートは、すぐに



野坂岳1等三角点(私と彼女)

郡市界となって、ゆっくりに下る。時に13時ジャスト。

10分で鉄塔438。ここで郡市界と分かれる北東線の巡視路は、良い道形となって、尚15分で鉄塔437。又15分で鉄塔436。13時50分、鉄塔435(3700m)に着くと、曇晴らしのいい鉄塔ルートと分かれて、右ヘジクザクに急下降すること5分で、谷嶺渡の水場となった。以後杉林中の小川を渡り、14時20分、送電線下の堰堤を過ぎて、車も通る道となると、右岸、左岸と渡って、甲斐の山部麓、森下酒店に14時40分に着いた。

すぐ後方(西)に野坂岳が大きくおおいかがさっていた。

○10月から12月初旬が淡季(平成5年10月上旬抄)

△コースタイム▽文中を参照
△地形図▽2万5千1:25000 教習・駄口

輸入ブーツは甲低く、甲高く、カントも狭く、その上土踏まずのアーチが高過ぎるので0既装束の日本人には合いません。痛いばかりか、時にはヒザ、腰のトラブルの原因にもなります。新着の履はヨーロッパ製を採り、防水性、耐久性も抜群、しかもうれしい軽さ。高級山靴からフォーキングブーツまでフルラインアップ。関西では当店のみの独自販売です。是非一度お試しください。

登山靴ならアンドウです

- ① DカームネスDX ¥30,000
- ② M1400 ¥30,000
- ③ 2500S ¥39,000
- ④ FOX ¥29,000
- ⑤ TS04 ¥26,000
- ⑥ ホットスタッフ ¥27,000

山とスキーの
ヨシスポーツ
〒543 大阪市天王寺区南船場4-70
TEL06(772)7231

山仲間が逝った

三方崩山

さんばうくずれやま

内田嘉弘

白山

「その名の通り、四方八方に大きな赤
赤けた崩壊面をさらけ出した山容である。
この崩壊は、白山に住んでいた天狗の
爪の跡である」と伝えられているが、実際には
1500年ほど前（大正11）、白山大地震の際に
できたものと見られる」（『コンサイス日
本山名辞典』三訂版）

この山には古い思い出がある。山仲間が
1999年5月に、この山の頂から大ノ
マ頂へ滑落死したのだ。仲間はずなれば過
ぎ、大ノマを挟んで山頂が見える1000
付近からザイルを使用してナイフリッジ
の横断をスタートし、山頂にテント
を建て、そして夕食後、トイレに行く
と出てテントを出たまま戻って来なかつ

た。二日後、地元の捜索隊と京都から山仲
間が入山し、大ノマの上端で遺体を発見し、
抱腹状痕から判断すると、山頂から一気に
転落、空中を舞って崖下に激突しての即死
であったようだ。

彼はその年カラコルムの木崎峰（8085
）峰への登山隊のメンバーの一人であった
のに残念でならない。ヒマラヤにあげられ
ていた彼の望みは叶わずして、国内の山で
散ってしまったのだ。この遠征隊はその数
か月後、隊長が交通事致死するというアク
シデントが続き、皮肉なことには遠征は中止
になってしまった。私は彼の願いが通じる
ように、翌年、カラコルムのK2（8047）
に遠征する隊員に彼の遺品を託し、K



1900年付近から見た大ノマと三方崩山

てしまった。

メンバーは案内と登山テンツからファミ
リー登山である。行きがけの駄賃に軽々野
の1208・6の標高峰を登ってから、
御園谷ダムを横走り抜け、平瀬の共同浴
場の前を山手に入る。この林道が三方崩山
の登山口。林道をジグザグにセカンドで登
ると坂道工事のところでストップ。仕方な
く手前のカーブの凹地に車を止め、テント
を建てた。夜はオリーオン星がはっきり見え
たから明日の天候は約束された。

翌朝、朝食もそこそこに出発。環境工事
のところで左のヤマの中かや上端の林道に



抜け、ジグザグに登ると山頂にカモンシカが
おり、湖の影を眺め、懐いてカメラにおき
める。

林道の終点から山道になり、いきなりの
急登で、足元の倒木にツナコケが生えて
いる。右の支尾根に抜け、左に回り込むと
辺りの紅葉を通して三方崩山の前後峰が見
える。下から見下ると最初のうちはこれが
が立派に見えていたのだ。三方崩山の本峰
と間違っていた。左の支尾根に出るとツナコ
ケの落ち葉をカサカサ踏み蹴り登りが続き、
次第に傾度になる。ザイルがフォックリス
された前も出てきて、そこをダイダイ登ると
三方崩山が正面に見える場所になった。しほ
し、小休止だ。

大ノマ頂へ一気に切れ落ちた危々しい三
方崩山を眺めると舌裏で凍るより道方があ
る。ここからは左にガレ場が次々に出て
きて切妻根が続く。道標にした仲間がザイ
ルを使ったのはこの辺りだろう。三方崩山
の頂上は、大ノマの海嶺を中心にして、まっ
と尾根が口状に回っている反時計回りの大
登りだ。登りだ。登りだ。登りだ。北方に、
今年ようやく登れた大ノマの頂上はまだ登っ
てない大笠山が望める。それが見えなくな
ると、葉い登りになって三角点三方崩

山（2958・8）の山頂であった。

先に述べた山仲間が転落した地点で彼の
遺品を拾った。樹間に白山が見える。西面
や南西面から見る気高のある白山の眺めと
比べると、こちら側から眺める白山は双耳
峰でそのうえ鋭い。波つ崎、立山連峰が
望め、その手前には非登りしたい磐梯山
の大きな尾根がある。

三角点のビンのなかに登頂者の名前を
書いた紙切れや名刺が入っていて、その中
に3人の知人（東京の橋本行雄氏、各務原
山岳会の森須武司さん、それに私の家の筋
向かいの松田健男さん）のあった。山頂
で知人の名刺を拾うことは案外くもあ
り嬉しいものだ。

下山中、またカモンシカに出会った。今度
は登山テンツの中かから
「ワンワン」

と大カモンシカを追い出したものだから、日
の前の登山道に並び出て、道標をたてて
下って行かなくなっていた。

（平成10年11月3日歩）

△コースタイム：環境工事の地点（3時間
30分）三方崩山
△地形図：5万1白川町

常念岳

2857 尺

浅野孝一



常念岳から見た蜂桶 (午前ピーク)と常念岳 (撮影 今福定次氏)

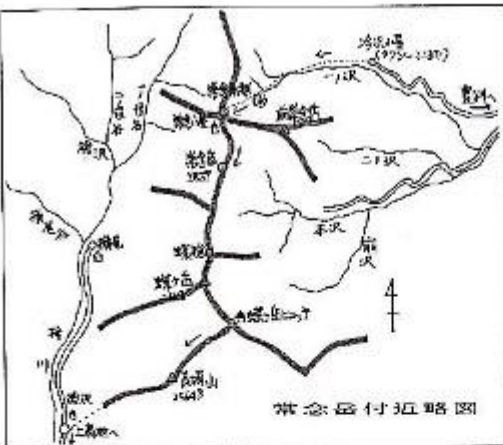
明治期、日本アルプスの山々を登ったウエストン氏は『日本アルプス登山と探検』において常念岳を「日本のマッターホルンである槍ヶ岳やベニツアルプスの女王ウィスナーンの峻険を思はせる優美なピラミッド型の常念岳」と評価すべしと西京の印象をのべて、又「松木付近から見るすべての峰の中で、常念岳の優麗な三角形峰、風景者に印象を與へるものではない。」(持書房・関村精一訳)とその山岳美をほめたうえでいる。

ふおあ・じやばん」の記述を引用して「大町寺徳村ヨリ西方二右折スルコト二里ナル尾川河字いわはちヨリ後ルヲ可トス、此山へ鎗嶽ノ正東ニ盤ス、深淵ナルびらみこと形ヲナセリ、上リ十二時間、下リ休養時ヲ加ヘテ八時間アリ」と記している。

浅野野がはるから上方に見え、遠くに後湖山が見えた。湖上に常念岳峰から常念岳岳にかけての緑の斜面が見えてくる。

の斜面にたくさん天幕があつて登山者の往来がはげしい。

三日目、朝早くは晴れていたが、霧が出てきて常念岳の山頂からの展望は消えた。山頂の周の所で休んでから蜂ヶ岳への岩の山腹を下る。最後峰部までかなりの時間がかかった。その後湖内湖内二つのピークをこえ、蜂ヶ岳の山頂に近づくにつれて晴れ、蜂川の谷をはさんで南・北高の山々が現れてきた。山腹の左手には常念岳山から常念岳山として山頂付近から、六百山・常念岳・常念岳、遠くに美濃岳・大倉湖山が見えてきた。それらの大體を眺めながら常念岳(6644.3)の山頂で休息した。



蜂川の谷をはさんで南・北高の山々が現れてきた。山腹の左手には常念岳山から常念岳山として山頂付近から、六百山・常念岳・常念岳、遠くに美濃岳・大倉湖山が見えてきた。それらの大體を眺めながら常念岳(6644.3)の山頂で休息した。

常念岳という山名について考えてみる。「山岳誌」は「昔時、田尻、田多井あたりの漁業者に安をさせる怪行者ありけり。五合入れば利に、或時は二升、或時は三升を入れよと云ふ。家人疑へども、彼の求むる所入たらざる事なりき。人、彼の求むる所を知るはず、其の母も知らず。唯青龍(彼は必ず其時時に安を見せたり)に購取られたる、怪しく恐ろしき彼の姿の、驚深く刺されたため。常念岳の精が將に鬼神か。人呼びて常念切と云ふ。」とあり、常念切(常念山)に怪行者の姿があることが知られている。ウエストン氏は「普通日本の峰の名は、その山の姿にちなんでつけられたり、或は山の守護者と思はれる仏像の仏の姿を取ってつけるが、常念岳の名は、こうした習慣に対して全く例外である。」と、彼にならんと動行する物の怪であるという伝説のことを記している。

る斜面がはげしくなつたが、すぐに覆れて見えたので雨が降つたのは知らなかつた。

10月3日大阪営業所オープン!

日本百名山と世界の山

ハイキングから
登山サミットまで

※全コース大阪発着料金です。☆他にもたくさんコースあります。資料をご請求下さい。(無料)

宮之浦岳縦走と縄文杉

11月20日(日)～23日(水) 4日間 102,000円
・朝2・昼1・夕2泊(最少催行人員12名)・リーダー同行

宮之浦岳と縄文杉&開聞岳

12月30日(金)～1月3日(月) 5日間 149,000円
・朝1・昼2・夕2泊(最少催行人員15名)・リーダー同行

於茂登岳と西表島ハイキング

12月30日(金)～1月1日(日) 3日間 142,000円
・朝2・昼2・夕2泊(最少催行人員12名)・リーダー同行

霧島連山縦走と開聞岳

1月14日(出)～16日(月) 3日間 68,000円
・朝2・昼2・夕2泊(最少催行人員20名)・リーダー同行

大普賢岳と和佐又山

11月3日(祝) 日帰り 9,900円
・お昼付・33名様(最少催行人員20名)・リーダー同行

武奈が岳

11月13日(日) 日帰り 6,500円
・お昼付・33名様(最少催行人員20名)・リーダー同行

護摩壇山と龍神温泉

11月19日(出) 日帰り 7,900円
・お昼付・33名様(最少催行人員20名)・リーダー同行

雪彦山と洞が岳と鉾立山

12月4日(日) 日帰り 8,200円
・お昼付・33名様(最少催行人員20名)・リーダー同行

●お問い合わせ・お申し込み先

アミューストラベル 株 06-265-3303
FAX 06-265-3306
〒541 大阪市中央区本町4-5-3
本町三井ビル2号館3F 一般旅行業取扱主任者/牛島 洋
詳しい旅行内容、条件はパンフレットで、ご確認ください。

日本旅行業協会 登録 大阪府観光局 登録 大阪府観光局 登録 大阪府観光局 登録
全日本旅行業協会 登録 大阪府観光局 登録 大阪府観光局 登録 大阪府観光局 登録

台湾最高峰

玉山登山 5日間

玉山は台湾の山の中で最も高く、標高は3952mです。登山道はよく整備されており、道幅は広く、難関はゆるやかな歩きやすい道です。中笠及雪山山荘より派遣されるガイドも同行します。

11月30日(水)～12月4日(日) 138,000円
・朝4・昼4・夕4泊(最少催行人員15名)・リーダー同行

台湾第2の名峰

雪山登山 5日間

雪山は、台湾五岳の一つで、標高3886mです。頂上には、一等三角点があり、武陵四秀の南側大山から中央尖山に続く展望がひろびろびます。雪山道はよく整備された、特に危険なところはあります。

11月30日(水)～12月4日(日) 148,000円
・朝4・昼4・夕4泊(最少催行人員10名)・リーダー同行

ミルフォードトレッキング10日間

全長59kmの世界に誇る美しい景観は、ハイカーの間では、1日35人までという入山規制に守られた至高の自然を、一歩一歩が感動の連続です。トレッキング中は、パークウォッチャーも案内します。今回は、高山植物の花が咲いている最高の季節にあそびます。

12月12日(日)～21日(水) 478,000円
・朝4・昼4・夕4泊(最少催行人員12名)・リーダー同行

キリマンジャロゆったり登山とサファリ15日間

『キリマンジャロ』はスワヒリ語で「輝く山」のこと、赤道直下に赤道をまたぐアフリカ最高峰です。たれもが一度は憧れるこの山を、一日の高層階級の山をもうけ、ゆたかな山頂まで歩いていただきます。アフリカには珍しかったり珍しい、キリマンジャロを背景にサファリも楽しむ充実したプランです。

1月15日(日)～29日(水) 598,000円
・朝4・昼4・夕4泊(最少催行人員10名)・リーダー同行

三日目、徳波から明神の豆門次小屋に立ち寄り、壁にかけられたウェストンが使用したビッケルを見てから河童橋を渡った。この一帯はもつ下界、観光客にまじってパスポートに向かった。タクシーに乗るとはげしい雨が降ってきたが、展望に恵まれた幸運な三日間の山旅であった。

(平成6年8月17日～19日 歩)



常念岳山頂の祠 (撮影 今福安氏氏)

▲登山タイム▼
17日晴れ 冷沢小屋10・50↑山ノ神11・00
11・45↑下流12・35↑最後の水場15・05
15・20↑常念小屋16・30(泊)
18日晴れ 常念小屋6・10↑常念岳7・55
8・20↑蝶ヶ岳12・30↑13・10↑蝶ヶ岳
ヒュッケテ13・40↑14・00↑長瀬山14・50↑
15・00↑御沢山17・50(泊)
19日晴れ 徳波山7・40↑明神池8・50↑
9・20↑高地10・30
△地形図▼
2万5千倍倍小倉・徳波山・上高地
*「ほんたごつく・ふおあ・じやばん」ト
本質直達の記事したものも高頭式が綴ったもの

告知せ
※登山一さんの新刊本を紹介いたします。
『雪山登山の真髓』(山と溪谷社) YAKA BOOKS) 新刊判・定価980円
『(治癒別) 徹底ガイド温泉と山遊び (京都編)』(学研 GAKKEN GREEN BOOKS) B6判・定価660円
*いずれも書店にありません。(電話注文)

野外活動に伴う危険と対策

坂井 久光

秋は日が短く暮れるのが早い。道に迷ったり、同行者にケガ人が出たりして、夜営を余儀なくされる場合も稀にある。テントや寝袋の用意のない場合、いかに快適な一夜を過ごすかはリーダーの腕の見せ所である。

谷間の水辺は避けて小高い平地を探し、大木の枝や小中木の先端を中央に集めて紐やつるでくくり、パイプ状にして上をビニールシート又は木の葉や枝、あるいは草で覆ってタオルで蓋して暖かである。これは、100メートル程度の人の生活の智慧で、粗石という。

いざ遭難ともなると焚火もやむを得ない。河原の枯れ木や杉・檜の枝がすぐ燃える。昔は松のシロ(樹脂)を炭に入れて持参し、それを火種として用いたものである。今では、ライターやマッチは必需品である。

野外塾

● 山芋の仲間

関西アウトドアスクール
校長 二名良日

秋の山行の楽しみの一つは、実りの秋山の香を、遠くからに感じている。味覚として味わう……こと、もう一つは、もみじ狩りの交を導いた万山紅葉の大自然カラーパノラマを、心ゆくまで堪能すること……ではないでしょうか。

実はこの食いつき？ とお聞き？ を用果合体系さるまよっとおもしろい楽しみ方もありますので、今回はそのヒントを紹介してみよう。

その答えは、山芋まがし×山芋ほりの一石二鳥です。

山芋は、緑の多い夏の頃は、その他の山の樹木・野草にまぎれて、なかなか見つかるのが難しく、ベテランの人なら、草木に上り登ったツルを頼りに、発見は可能ですが、また成長中で樹が小さく、夏草の繁茂で、知るのもまた大変です。

ところが秋も深まると、相当に早い時期から、木にかかっていた枯れ所の山芋の葉が、ま、先に冷気に反応して、黄色く紅葉？ しますので、いとも簡単に見つけることが可能です。

その上、葉の付け根（葉痕）に、ムカゴと呼ばれる球芽が次出っいて、これがまた妙ったり、能く炊きこんだりすると、ヤマノイモと同様に、葉は肥料は対生で、葉腋にムカゴができます。葉の形は、ヤマノイモより幅広い心状卵形です。

果実の頃は、15センチ20センチ、ヤマノイモより少し小柄です。

① ニガガシヤウ
葉は丸いハート形で、互い違いに出る互性で、ムカゴは付いています。

地下茎は球状で、長い毛が生えています。雄花の花被片は厚く、葉色をおびているのが目立つ特徴です。

② オニドロコ
葉は丸いハート形で、なめらかな光沢をもち、互性ですが、ムカゴはできません。

地下茎は球状で、毛が生えており、苦味があるの、マツヤチがおいと食べられませんが。

花被片は薄く、黄緑色で、雄ずいは6個が発達しています。種子は片だけに集まっています。

③ ウチワドロコ
葉はワチワチ葉状に分裂し、互性でムカゴはありません。

根はオニドロコと同じように樹根形で、毛が生えています。

花被片は薄く、黄緑色で、雄ずいは8個

悪魔な山の香りを堪能させてくれます。また、ナジヤヤマドリなどの鳥たちも好んで食べます。こたえられない自然の贈り物というわけで、地下茎のあのおいしい、自然生と合わせる時、まさに「二百萬」の視覚と味覚、美しさに感動する若々しい心と、長寿・健康に通じるグルメの酸味を、遊び楽しませてくれる……、それが山芋ハンティングの面白さなのです。

ところが更にこれに加えて、野性的・知的好奇心を刺激してくれる、プラスチックのクイズ的要素もあり、今回のメインテーマは、実はこの部分である次第です。

山芋の仲間たち

各地で通称山芋と呼ばれているヤマノイモは、ヤマノイモ科の学名DIOSCOREACEAE ACRATEというツル性植物で、英語でYAMと呼ばれていることからもわかるように、南洋島嶼の主食の一つであるヤマノイモの仲間です。

そして、海山の天才オホカホンに登場するデコッパのデコボコ頭のように丸いや、タヌキの金髪に毛が生えたような階大なもの、原産地のようなイチョウワ形や、ハットのような長筒形、シヨウガや竹根のような

が発達し、種子には片だけ葉があまり

④ オニドロコ
葉は丸いハート形で、下方の先が尖り、互性、ムカゴはありません。

地下茎は球状で、毛があります。

花被片は薄く、黄緑色で、雄ずいは6個が発達、種子の周囲に膜があり、雄花が下垂して、小花柄のあるのが特色です。

⑤ カエアドロコ
葉はカエア葉状に分裂し、葉柄の付け根に突起があり、互性でムカゴはありません。

地下茎は球状で、毛があります。

花被片は薄く、黄緑色で、雄ずいは6個が発達、種子の周囲に膜があり、雄花に小花柄があります。

その他にも、雄花が無柄で、葉柄基部に小突起がないキクバドロコ。葉が細長三角形で、雄ずいの周囲が発達し、雄花は無柄で、地下茎に白毛のオニドロコなどがあります。

⑥ ナガイモ
日本の在来種で、栽培地も多く、その名の通り、長い株の太根を持っています。

⑦ ヤマノイモ
普通ヤマノイモ、地方によってはシキシヨウとよばれるヤマノイモは、日本・台湾に一般的に見られます。単葉種で、果実の幅は25センチ20センチです。葉の形がキツネのような幅広いハート形（心状卵形）である点や、葉の付け根（葉痕）に、ムカゴの跡（芽）が出る点、そして普通は葉が向かい合って出る対生である……などが同別のポイントです。50センチ以上の細長い地下茎をドロコとして食します。

葉は丸いハート形で、互い違いに出る互性で、ムカゴは付いています。

地下茎は球状で、長い毛が生えています。雄花の花被片は厚く、葉色をおびているのが目立つ特徴です。

② オニドロコ
葉は丸いハート形で、なめらかな光沢をもち、互性ですが、ムカゴはできません。

地下茎は球状で、毛が生えており、苦味があるの、マツヤチがおいと食べられませんが。

花被片は薄く、黄緑色で、雄ずいは6個が発達しています。種子は片だけに集まっています。

③ ウチワドロコ
葉はワチワチ葉状に分裂し、互性でムカゴはありません。



峰山高原への峠道より見た樺根の山々 (左端が三辻山)

眼下には標高は低いが緩い傾斜をもつ数本の尾根が伸び、南方向に延び、明神岳・七郎山など樺根原地の山々を近くに眺める。20分ほど休憩し頂上を目指す。人の背丈ほどの割れ目をくぐる奇形岩を通過すると岩のやせ根絶の音が響く。途中格好の岩テラスがあり、ここから東、南方向の展望が広がる。11時ちょうど、酒ヶ谷の尾根峰・大天井岳に着いた。

男女5名の中高年グループが温かそうなみずけで食事中。加二川の山の会のメンバーと一緒。頂上からの展望は高段峡と垣野をますます加え、眼下の樺根の集落がマツチ箱のようだが、東側目前には大天井岳の絶壁を隔てて不行橋の灰色の岩壁が、所どころに雲梯を付けてそそり立つ。奥の尾の山では味わえぬ景観であった。

11時10分、立派な祠に手を合わせ山頂出発。北へ樺根の尾根をゆく。左に天狗岩を見るとき雲霧山麓と地蔵岳への分岐。ここにザックをデマリし右に少し下るとすぐ目の前に地蔵岳の岩壁。右に不行橋や大天井岳の絶壁の火の岩壁。左に雲霧山麓の緩やかなカーブを登る。元の分岐に戻り「鹿の窟」の標識に従い尾根を北にゆく。雑木や杉木の樹林帯を下り、真新しい四

角・公共の石橋を過ぎると樺根の三差路に着き、左へ樺の壺・関方面への道を開ける。鹿の窟は十数個の天然の洞穴がある奇跡らしいが私は知らない。真つすぐ樹林を登り返し、上下するとすぐ明るい樺木帯の道となり快道に前進する。途中、縦走路から少し張り出した磐石で小休止。懸崖は先程の荒々しい岩壁から穏やかな山容に一変していた。道は再び左右樹林の環道となり垂ヤブをかき分けて9.15・2分時に着いた。

樹林に叩まれたこのピークを四上地理院では尾根山として如何なものか。展望もなくすぐ樹林帯を下ると峰立山との鞍部に着き、ここから升丈以上もある垂ヤブを登り返す。以原のこの辺りから峰立山にかけては素晴らしい展望が得られたが、今では杉などの樹林が育ち手く見えなくなりました。

12時20分、峰立山に達する。3人の樺人が救急みょうとんで昼食をとっていた。期待した展望はここも無し、素通りして樹林と雑木の環道を下る。前方樹林を通過して9.42分峰立山のカーツの山肌を折り返す。途中で展望欲しさに右のカーツの山肌までツツシを遣いだが、カーツの背が高すぎて見えすけ仕方がなく後戻りする。一刻して杉が密

生ずる薄暗い9.42分峰の平頂一角に着く。杉の木に「聖彦一峰山」の標識がつけられていた。以前見た素晴らしい展望を求めて私の足は躊躇なく峰立山麓への縦走路に向いてしまった。急に不明瞭になった縦路上の踏み跡を下るとすぐ左へ問題の三辻山への緩やかな尾根と踏み跡が枝れる。真つすぐのツツシをかきわけ樺木帯から抜けた急坂。縦走路の西面山肌は樹林が完全に伐採され、北・西方向に傾いた展望が広がった。西側近く樹林におおわれた三辻山の峰、北面近く坊主頭のような大原山と北に続く御界尾根上のピーク、向は今歩いてきたばかりの峰立山などの雲霧山麓。そして遠く相原山・二山・後山・三山など樺根の山々を双眼鏡で同定した。峰山高原の峰々、夜霧山は大原山に隠れて残念ながら見えない。ここから見ても三辻山を雲霧山とすることに疑問を感じた。ここで約1時間の昼食休憩をとる。

13時50分出発。もどきた踏み跡を辿り9.48分峰に登り返し、分岐より左へ杉林の急坂を下る。10分と下ると谷の清流で小さな流れを滝に成る。露岩の多い流を右に左に流れて下ると、左より小さな谷が合流し、今までの本谷に美しい美しい流が

かかっていた。午後の日差しが杉林を照して谷の流れをチカチカと照らす。樹林帯の中の谷道をくぐぐぐ下るとやがて谷は水音を消し大きく開ける。雑木から美しい清水の道に変わると行く一気に入食美を愉え大きな滝が落ち、左側、右側と峡谷を愛でながら下る。左の山肌が傾斜になると道は左側岩壁につけられた木柵子となり、右に深い渓谷を見下ろしながら下路となる。付らぬよう注意が必要だ。右を上を覗き見ると地蔵岳の太岩壁が威圧するように聳立していた。14時50分地蔵岳登山道分岐に着く。大湖下のベンチで小休。

河ヶ岳三山のそそり立つ大岩壁を眼前に見る。休憩しているとき登山道が急に隠れなくなり御界尾のグループが下山してきた。『毎日登山の会』で朝10時からの雲霧山麓登山のことだ。15時出発、分岐より真野神社への道を下ると分岐で右に元の登山口への下山道があり、砂ヶ川流を下る。流れ流を渡り岩をまいて清らかな溪流を渡り、岩につけられた赤ベンチに寝かされて下り、小谷が合流して大きく開けた夢前川渓谷の右岸山道を右に杉林をみて下る。左に御界尾の珍しいダムがあり、ここから少し歩道に出て16時前登山口に着

いた。清流で汗を拭き、バス停で休憩している。『毎日登山の会』のメンバーが次々上り山、休む間もなく大湖の観光バスで走り去っていった。つづいて17時16人の男女の若者が肩から腰に登山用具をきややかに下りて去っていった。若さをうまやましく思った。

私は16時26分距離ゆきの定期バスに乗り降り降りはじめた雲霧山を後にした。(平成5年12月7日歩)

▲コースタイム▲
登山口(ハ1時間10分) 由雲岩上部展望所(15分) 大天井岳(20分) 鹿の窟分岐(25分) 9.10・2分峰(30分) 峰立山(15分) 峰山分岐(雲霧原上の展望所)12分(20分) 地蔵岳分岐(50分) 登山口(△地形図)を方角より参照

◇ 三辻山について正確な情報をお持ちの方は本誌に寄せて下さい。



一五

アルプスの大展望台

蕪山

松田敏男

奥美濃

岐阜県は北半分が飛騨の国、南半分が美濃の国で成り立っている。その南半分は美濃の国で、高山本線が通っている本會川の支流の飛騨川と、長良川鉄道が走っている長良川によって、おおむね三つの地域に区分できるように思う。どの地域もすべて美濃の国の奥の方に山があるから、奥美濃の山と言ってもさしつかえなさそうであるが、通称奥美濃の山と呼ばれる地域は、それから三つの地域のうちのいちばん西の、すなわち長良川より西を指している。20万分の1の地形図の「岐阜」は、ちょうどこの地域のために作成されたかのような、私にとっ

ては魅力の尽きない図柄である。長良川本流の西には大きな支流飯坂川が流れる。その西は飯坂川から分かれた現尾川。そしていちばん西は、ダム湖の底に沈んであるうぶ山山を流す飯坂川が流れている。大きく分けてこの四本の川の間に、西より小津桶山や花岡山の山群、サンノウの高ヤドリの天井といった名前から想像できる奥深い山々、そしていちばん東は高野山やこの項で紹介する蕪山などが並んでいて、それぞれの山々の間には、四塔後継が東の那智谷から、飯坂川の能郷白山、尖峰で人気の高い蕪山を経て三ツヶ岳に至るまで、深く屈曲しており、この山域はいくらか通って見れば、とくせいな魅力を感じてくるのだ。



蕪山より高貴山を見る

開かれている山はわずかで、秘密を利用して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅の南側を出発する。車台の6人は名指しを渡して登る山が多いのだが、今回は初心者も参加できる山ということで蕪山に決まった。少し遠いので前夜発となり、夜の5時に京都駅



に彩られた谷をつめていった。所どころに宿舎の針葉樹もあり、紅葉色の対峙はなお一層華やかさを醸し出している。蒼むした倒木などもあり、深い山懐といった風情のある道が続く。落ち葉がたくま重なり、時によれば迷ってしまいがちな、なだらかな所も通過すると、沢がもたもた登り始める。後山に出ると、南の尾根からのしっかりとした道に出会う。この道はトイシなどの段層のある公園からの一般登山道だ。下の方よりファミリーハイイクの人たちの声が聞こえる。ひと登りで頂上に着いた。

車上は森林の中だが、その樹々の間から白い山が見える。その白い山をめぐらして線林を抜けるように少し下れば、白山と別山が白く重なるように見えた。紅葉にはおとと大きく右をゆったりと引いた御岳が、まだまだ白くない姿で逆光の中に浮かんでいる。樹影を移せば、御岳の左には華厳、そして徳川家、前穂高の吊り屋根までもはつきりと見えるではないか。望遠鏡をのぞけば、徳川家の標木も確認できた。

▲コースタイム 蕪山登山口(ハコ)から蕪山(1時間20分) 奥美濃林道終点(地形図)の方より上へ歩

道にさがることは特別である。秋の気配の深い中、ビルが全体にしみわたった。朝に、後発の2人が到着。それを機に限りなく山を分け入った奥まった地点で、私はいつぞや入ったこともなく、その昔々な気持ちに身を委ねた。シユラフの巻かれる音にさへ、浮き上がった気分になった。

次の日は文化の日にあさわしい快晴。文化の日は一年のうちで最も晴れる確率の高い日である。この年もその統計通り、美しい秋晴れだった。1890年から4年連続快晴の山行である。奥美濃に付けられた小道を登る。地形図でも確かめたように、落葉広葉樹林の口をゆく。朝日を浴びた紅葉はあつやかの一路に輝き、女性3人を含む一行も人は、ゆっくりとした歩調で麓秋

の森を真ん中にして記念撮影。華入りのラーメンで昼食を大いに盛り上げた。そのうち他のメンバーの人たちが、頂上三塔の位置計らしきコンクリートの建物の周囲で居ているので、われわれも倒壊した木道根を伝ってその上に登ってみる。するとどうもさう、中央アルプスと南アルプスが見えるではないか。南アルプスの北側は中央アルプスにかくれるが、奥美濃の蕪山も、赤石山、華岳がはつきりと確認できた。思ってもみなかった大展望。雑木林の中の静かな山頂と、どこかの本に書いてあったように田舎の山だが、もう頂上まで登って化したのである。

▲コースタイム 蕪山登山口(ハコ)から蕪山(1時間20分) 奥美濃林道終点(地形図)の方より上へ歩

キナバル山

生駒 聳 峰

ボルネオ島

キナバル山(ローズピーク)主峰



マレーシア領ボルネオ島にあるキナバル山は、東南アジアの最高峰(4101m)を誇っている。日本の富士山のように人気のある山で、国立公園に指定され、入り口に管理事務所がある。

ガイドやポーターたちも国の管理下であり、登山道も道標や休憩所(シェルター)が良く整備されている。国立の山小屋の設備もよく、3300m以上の山の上まで電気が送られていた。

登山者も現地の人はもちろん、日本、台湾、韓国、ドイツ、ニュージーランドなどの人々を訪れ、連日2000人以上もの登山者があるときく。

又、キナバル山は植物の宝庫でシヤクタゲを聞、特に食虫植物の大きなウツボカズラが珍しい。たくさん的小鳥たちはパードウォッチャーにも評判である。

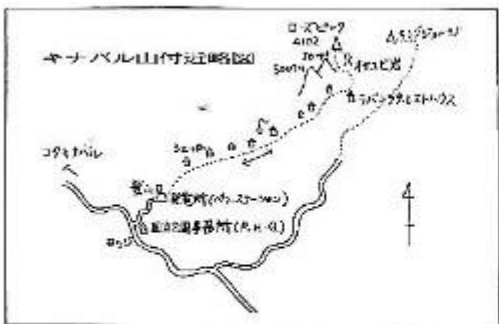
日本からは幾つもの旅行社がツアーを組んでいて、行かれた人も多いことと思うが、私は半成り年の秋、毎日新聞社のツアーに参加して登った。

大阪からも名の人たちと共に先ずシンガポールに行き、泊。翌日ボルネオのコタキナバルに飛び、バスで3時間30分走って高層1500mの村にある登山口の、国立公園事務所(プ・H・O)に参った。ここで入山手続を済ましてロッジに入る。

何軒もあるロッジのなかで、私たちの入つ

たのは二階建てで、トイレ・シャワー・炊事場が共同になっており、部屋には一階ベッドが4つ、8人が寝られるようになっていた。食事は別棟にあり、この二階にはキナバルの写真がいろいろ展示されている。現地の人たちは炊事場で様々な料理を作っていたが、中絶者の人が多いせいか、中絶料理に似たものが多かった。

ロッジは広い森の中に点在していて、周



期の木々にはいろいろな小鳥たちがやって来る。ベランダで双筒鏡片手に小鳥を追っていると、時のたつのもに狂ってしまう。パードウォッチングだけに、治まりに来る人も多いそうだ。

11月から4月までは雨期に当たり、毎日午後には激しいスコールが襲って来る。今

日もここに居た時は雨が激しく降っていて、キナバル山は全く姿を隠せなかった。日が暮れて夜のようになり、ぼんやりとした光が西から照らされ、霧が降れ始めてきた。霧が降れ始めてきた。霧が降れ始めてきた。

山頂はまだ雲に包まれていたが、中絶にライトがつかぬ間をくぐり、山小屋の位置を小さくしていた。下のライトはテンビの送信機、上がパナソニック・レストハウスで、標高3300mの所である。双筒鏡で見たと、標高のライトが集まっていて、何軒もの小屋があるようだ。それにしても大

道高い所に雲が流れてきているものだ。明日はあそこまで登るのだが、パワーステーション(発電所)から1500mの、まよつと二汗被れそう。

翌日、朝食後公園事務所に立ち寄り、ガイド2人、ポーター2人と合流して、バスでパワーステーションまで15分走り、バス

機なことに天気は驟く小雨である。先頭と最後尾にガイドがつき、傘をさしての登山が始まる。ガイドとポーターは現地のカタナン人で、小柄で進歩のよう、素朴で愛想がよい。

少し下ってカーソン橋をすぎ、林の中を登っていく。ヘゴ椰子が茂り、木々には間

が寄生している。全くの無世間林である。雨と違って日本で見える花と違って、全くの野生的で、花は小さくて見覚えがない。

野山のシュルターに到着する。シュルターとはすなわち休憩所のこと、10人も入らないくらいの屋根だけの建物である。タンクに水が引かれていて飲むこともできる。

又、次のシュルターまでの所要時間や高度が掲がされていて、登山の参考になる。

第2、第3とシュルターごとに休憩所を繰り返して、第4シュルターを過ぎると、EVの送電所への送電機がわかる。第4シュルターには管理小屋やトイレがあるが、小屋には鍵が掛かっている人はいない。入り口の壁の下で早めの寝床にする。ナンドイッチ・鳥の手羽、卵、オレング、缶ジュース、余り美味しくない。彼のせいかもしれない。

何とか雨が止む。ここは登る人と下る人が行き交うので賑やかだ。ガイドやポーターを連れて外国人と、片言の英語が飛び交う。だいが高くなったので少し風苦しい。現地話もゆっくりと聞けるのは、「プラン、プラン」だそう、ガイドが「プラン、プラン」と言うのに合わせて、全員がゆっくりと答える。日本語の「おら、おら」に似ている。ガイドが「プラン、プラン」と



ラバンラタ・レストハウス前にて

白いながら寝る。

第8シュルターを過ぎると、ヤコと今日の宿舎に到着である。ラバンラタ・レストハウスは、隣建ての大きな建物で、売店やレストランがあり、個室には一段ベッドに電気の種類がされていた。

周辺にはもう一つアパートのような二階建ての宿舎があり、小さな小屋が5、6軒点在している。まだ午後早いのでそのままだま上に向かう人もいるが、午後は毎日のように、スコールがやって来る。私たちが

ゆっくり登山で、今日はここまでである。早々にシャワーを浴び軽い部屋で一休み。3300級の高さにしては、大変快適である。

案の定、夕方に大雨が降ってきた。見上げるキナバルの大岩壁から、まるでダムが決壊したかのような激流がほとほと流る。そのすさまじさにはしばしば嘔然と見惚れるばかり、少したまってあわててカメラを取りに走った。天気の変化は激しい、大雨雨が止むとすぐに曇りが切れて、夕日が西の空を真っ赤に染めている。明日の好天を願って、いつまでも乾照の空を眺めていた。

大きな水銀灯が4つばかり、回廊を照らしている。3300級の山上に山小屋村が出来ていた。昨夜下からこの街灯群が見えていたのだ。

朝を時起床、急事を減ませるときに出発する。星はみえないが天気はまずまず、どこからともなく登山者が集まり、ライオンを手に一列になって登る。道はしっかりといて、崖下段には手すりもついている。高度が高いので呼吸が激しい。林を抜けると岩壁に木いザイルが張られていた。暗くて見えないが数は大きく落ち込んでいた。少ししばしば緊張して岩壁の上には、い

さい山小屋が見えてきた。サヤサヤ小屋である。

岩は岩壁ばかりとなり、木いザイルがどこまでも延びている。これは登るためだけに、よく道しるべにもなっていた。

夜が明けてくると、昇球場がスッペリ入るくらいの高の大巨峰(マウンテン)が現れ、その間隙に岩壁が透つも見えた。Dronkey, SOUTH, JOHN, そして最高峰の LOWSPEAK. ローズビーク以外にはみなロッククライミングの技術が必要な岩山ばかりである。ゆっくりとロープを放ってローズビークへ、山頂部は狭いので、一グループずつ順番に登って写真を取る。

海が見える、サンダカンあたりか。巨元に広がるプラトー、長々と延びるザイル。阿蘇の火山原が、金剛岩盤になっていると想像してもよければよいだろう。

山頂を下りて東側に進む。視界を立体的な岩壁があり、要地名もOyohoye Beer, 全くの日本語であった。

今夜も山小屋に泊まるので、ゆっくりとプラトーを散歩し、岩壁の上でひなたぼっこをしてみよう。

てきた。各自いろいろな服装をしていて、中には厚いオーバーを着ている者もいてビックリした。キナバル山では、たに雲は降らず、今の気候はマサヒを弄っていて、日本

の夏山くらのまま下山するのだが、私たちはゆっくり登山なので、今日もラバンラタ・レストハウス泊まりである。兵前にハ

ウスに降りる夜をとり午後はお休み。午後になると涼しかったようにスコールがやってきた。下山した人たちは雨に濡れているとどろろ、私たちのようにその後休養しているほうが正解かも知れない。

翌朝は快晴、雲海から登った太陽がドンキー・キングニドワード・キングジョージの峰々を、そうしてキナバルの奇麗な風景を、赤に染めていく。その雄姿を空に写像されて

しはじと立ちつくしていた。

山はゆっくりに、昔の泊まり場だった岩壁をまたり、巨大なラッパガスラの葉をのぞいたり、園の花を探しながらパワース

テイションに降りついた。公園事務所が管理するから仰々しく登山証明書を買い、売店でアッシュンをおみやげに買い、キナバル山に別れを告げた。しかし、もう午後になっていたので雲が薄さ、キナバル山は姿を見せてはくれなかった。

その後、バスで1時間ばかりかかって、マリン温泉の熱帯雨林の木々に染けられた、高さ1000mの吊り橋を渡ったり、温泉で汗を流したりしてコナキナバルに帰った。夕方コナキナバルでは、又しても大スコールに雲舞われた。

翌日、コナキナバルの市場などを見学し

シンガポールを基中して、深夜の飛行機で大阪に降りついた。

今回のツアーは、中腹の山小屋に二泊するゆっくりにコースがとられていて、中高年向きであった。又、この時期は雨期であり、午後には必ずスコールが襲ってくるので、それを避けるために午後には行動しないようになっていた。適切な計画であったと感服。今回しても、日本では見ることの出来ない山の頂きに立てたうえに、自分の登山服(靴)を更新できたのは、良い経験であった。

(平成27年11月10日)

☆コースタイム
ラバンラタ・レストハウス(1時間)
30分 サヤサヤ小屋(2時間) ローズビーク

近畿の山 日帰り沢登り

中庄谷 直・吉岡 章 著 四六判・二〇〇〇円
夏山の醍醐味は沢登り。本書ではハードな沢を除き、のんびり水たわむれ、遊べる比較的易しい沢を、詳細な地図付きでガイド。

初登山今西錦司

今西 錦司 著 四六判・二八〇〇円
京都北山は罪なるかな・・・
15歳の富士登山から28歳まで、京一中、三浦、京大時代の山岳著作を木

ナカニシヤ出版

東京都中央区本町二丁目2番2号
東京 075-751-1211 7606

野の花讃歌 (6)

市川 正次朗

紅葉なら青生原生林



新緑のきれいなところは紅葉も美しいとはよく言われることでも、実にそのとおり、中でも落葉樹の種類の多い雑木林、そこにマナがまぎっていただけ以上のことはありません。

東北や北海道へいけばダイナミックな紅葉に出会えるのはもちろんで、毎年の季節になるとテレビでも放映され、ああいなり、行きたいなあ、嘆息ばかりです。ただ、時間とお金のない私たち。せめて三五に秋の美しさを満喫したいと毎年出かけるのが芦生原生林。須賀の京大前林事務所から、かつての森林軌道をいに長治谷作業所まで。また地蔵峠からブナ林の谷沿

ピニール鉢の高山植物



最近、あちこちにできている「山野草の店」が気になる。素材なかなか肌を温かまの伝わるような植物が好きで、毎回何回か信楽を訪ねます。その道中、大きな看板を出した山野草

いに三郎峠や杉尾峠へ。高麗や清湯のような鮮やかな紅葉ではありません。淡い黄色、真の黄色、そして薄茶けた色とりどりが、常緑の針葉樹を配して、それは実にきれいなのです。もし私に絵心があれば、芦生の山の斜面に色を織りこめて、この年の雄々のワイナールを、キャンパスにおさめることができるだろうに、悔しく思います。でもいいのです。芦生の山を谷沿いに歩く、早くも落ちた木の葉の溜まり、湧き出る清水の冷たさが山花に染みて、何ともいえない心の安らぎを覚えるのです。

の店、なまなか無くなって、つい立ち寄ってしまいました。蘆原の店内には、看板とおりの山野草がいっぱい。山を歩いてもめったに出会えない花たち、たとえばダイモンソウやハクサンチドリ、サギソウなどが黒いピニール鉢の中にあるのです。だけれど、どこか元気がありません。何年か前、花博の高山植物エリアに咲かされたいた花と同じように悲しげです。値段はけっこう高いのですが、つい目移りしてか、あれもこれもと買って行く人が後を絶ちません。

昨年、いつも歩きたれた城丹国境の山へ行ったところ、林道近くの山道の向サイドにユニホで掘り返したのではないかと思えるほどの穴ほこがそこに。イワウツワ、シコウジヨウバカマ、カタクリなど山の花がごっそり姿を消していました。まさか、山野草の店の人が密猟したとは言いません。山の花が大好きなハイカーがたまたま持ち帰ったのかも知れません。だけだ山の花は山に、野の花は野においてやるうちはありませんか。家の庭に持ち帰ってもめったに育たないし、もし育っても山野に咲いていた頃の輝きははいたのですか。

京都北山 やぶ漕ぎ痛快山行記 (17)

城丹国境尾根を歩く

飯盛山・天童山・牛滝縦走

城丹国境尾根とは、丹波の国(兵庫県・京都府)に属し、口丹波・奥丹波・南丹波、北丹波と分かれ、その内の口丹波の京北町と山城の国(京都府・京都市左京区・北区)の国境の漆原尾根を山仲間では「城丹国境尾根」と称している。

今日の例会は新ハイ関西の「北山歩き14」と偶然にコースが重なり、入山にはタクシーの確保が困難だろうと前もって村田代表と打ち合せ、中野10合を予約する。栗合地地下鉄北大路駅、遊覧銀行前には石川リーダーを始め、KKG仲間16人の顔が揃う。他にBさんの親主人のマイカーにT大妻が同乗で、合計19人のメンバー。マ

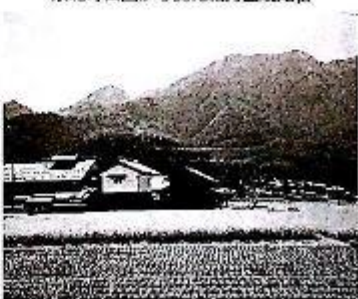
京都北山グループ

ハイカー組はとりまえず祖父谷林道終点まで先発してスタート。

新ハイの参加者は36人で、二人ハンパができたので、小堀1合を拾い、日台の車が壁を踏み道を走る。早朝からの車の列は、村人も驚くほどの山入りである。

新ハイは臨時分岐の林道でリーダーから指示を受けているが、我々KKGはそれを横目に見て先行する。BさんとT大妻が待つ祖父谷林道の分岐へと進行。あまりにも我々の到着が遅いので、台流場所が違ったのかとT大妻とBさんが追えにこぼれ、マイカー組の待つ駐車場広場で台流する。リーダーより予定は飯盛山・ジョウラク峠より比叡江

京北町山園から見た城丹国境尾根



コースであったが、迎えの車の都合がつかず、飯盛山・天童山・牛滝へ大森中町へのコースに変更するとの説明をうけ出発する。先日、11月の例会で通った祖父谷短長の新設林道を右に見送り、祖父谷谷短長の山道へと直進する。左上枝敷ヶ岳よりの緩傾コース東斜面の谷間に伐採され、木出し直後の丸坊主斜面になっている。ナベックロ谷道を登るよりこの坊主斜面のイッキ登りのほうが面白いと後援一決、左の丸坊主谷に入る。トップは正右にまわして作業仕事道跡を拾いながらの直登にかかる。高度差にして1000級、まだ傾斜されていない

土柱面で、掴むものもない四つんばいの姿で、後方から来た新ハイの列は「エレインは終面を無印して行きよるなあれ」と呆れ顔でナバクロ谷手頭ルートへと別れ去る。

約20分程の遊歩路の末、機軸からの後線道に落ち、無理しただけあって東面の懸崖は標高の160度、遊歩軌上に其数から比良山系までが一瞥でき、休憩をとる。ここから正統のルート、すくにナバクロ谷からその合流橋脚で、下から新ハイのメンバーも登って来りかねる。36人もおられので先降りしてしまい、我々は後山に降り、急カーブに曲がる濁水世帯の尾根道、しほやくで標高の巨大な木をそり立つナバクロ峠に落ち、左へは急谷を通り大森への標高をかきわけての勢り、10分程で祖父谷峠からの遊歩路の次郎峯の立つピークに飛び出る。鉄塔上場から北側に、丹波高原の山並みから若丹岡遊歩道までが望望の澄んだ初冬の空の下、素晴らしい眺めだ。

新ハイの皆さんはここで休憩中なので追いついてF042へと先を急ぐ。次の鉄塔までは遊歩道、その先は杉植林の中のトラパス道でこれを越すと杉木林の落ち葉のクッション道となりF042のピーク下に

着く。ピークの岩から大谷を通して大森側が眼下に見える。道はここで例石に崖があり北の稜線に繋る。また杉の植林下の遊歩道、外さすに行けば鞍部に出る。昔い樹林下、赤テープを拾いながら西進する。左は大谷側、右は小根父谷側の稜線を登り下りて六の谷と小根父谷への辻に着く。標高が木にあり大谷への逃げ道を示す。

昭和40年の京都団体コースに選ばれてからは良く踏まれ、明文社「京都北山」の地図に速く箇所と記されている現在地も今では、踏み跡も判然としてなやら不安を感ぜないコースだ。

飯盛山へは朝山を北に巻いて登る。また杉木林にかかり、赤テープを頼りに高崖を登る。朝山からは急登で飯盛山700mの頂上に着く。雄木谷まで展望は望めない。11年前につけた火の跡末防火線跡の山をトレートが峠で、飯盛山を登頂していきつれた。他の山頂のように無数の名札がないだけに心安ろく山頂だ。新ハイも到着され、この山頂でお昼弁当が、我々は天童山へと急降下で大谷へ下りる。

今日はまるでインソング遊歩の尻と鹿の山歩きた。天童山手前の閃電反射板標の立つピークへの登り、皆さん「海がハッタ」の

音がしきり、「天童までの平地だ」と反射板標もピーク広場に登りつく。金網の罫間は灌木も刈りとられ、今迄った飯盛山のツェンヤこの先の赤テープの天童山のツェンヤが目の前に着目に見える。反射板ピークから吊り橋で天童山へ登る頂上に出る。杉巨木下の広場、スツの間から東原山・ヒク岳・愛宕山方面が望めるが、ここは三角点の無い独立峰だ。

我々19人は早稲穂杉木を集め、焚き火で飯をとり、口裏になって弁当にする。12月に入ると焚き火はと有難い。遊歩は寒い。腹食が終わる頃、又新ハイの皆さんが我々を追い越し茶臼峠へ、「大森中町で会いましょう」と言別れ去る。

天童という名が良いのか、地況京北町山國小学校の恒例登山の山になっており、登山記念標が数に立っている。ここから南下すれば降りる新道の池泉堀、又又公園にて案内します。今日は午後遊歩のため、谷に降ります。茶臼峠への道を降りる。5分程で新道の標の標の所から左へノ谷の麓に突入し、イッキ降りて遊歩に通ずる池泉に出る。後はドアン谷谷間に下る。途中にあった作業小屋もつぶれて無残な姿になっている。12年前、



冬山制会や雪降り休憩で区別になった小區だけに愛着が湧く。小屋の前には水塔もあり「美味し水です」と小休此。

谷の間から若原山から半田山山に延びる稜線が望め、飯盛山標も見え、だいたい降りたらしし。左下に黒い大岩が杉林の中にアグラをかいて坐っているようだ。大岩が覆たように見え、頭を覆うくほみから流が流れている。名の通りの半流だ。流を渡るには左下の岩の中を降りると滝下に出る。流を渡るの難だ。この下の谷で右側と合流、その右側の土にも流が流れている。一帯の大森、この二つの流でこの付近に流

【一の花・この草】

シラン (Lilopsis sp. Focke)
ハナキキ (Horigaerane)
古くあり新道に咲く。花は、花弁にはムラサキの根(赤)が、葉には緑の木灰の根(赤)が用いられ、花は、ムラサキの根(赤)が、葉には緑の木灰の根(赤)が用いられ、花は、白く小さな、どちらか一方が白く、一方は赤い。

本誌に自筆、その生地で採集して、採集したのが万葉集の歌である。大切にされて、今日では、採集の前後に採集した。花は、白く小さな、どちらか一方が白く、一方は赤い。

本誌に自筆、その生地で採集して、採集したのが万葉集の歌である。大切にされて、今日では、採集の前後に採集した。花は、白く小さな、どちらか一方が白く、一方は赤い。

熊野古道を歩く

— 伊勢路 —

児嶋 弘幸



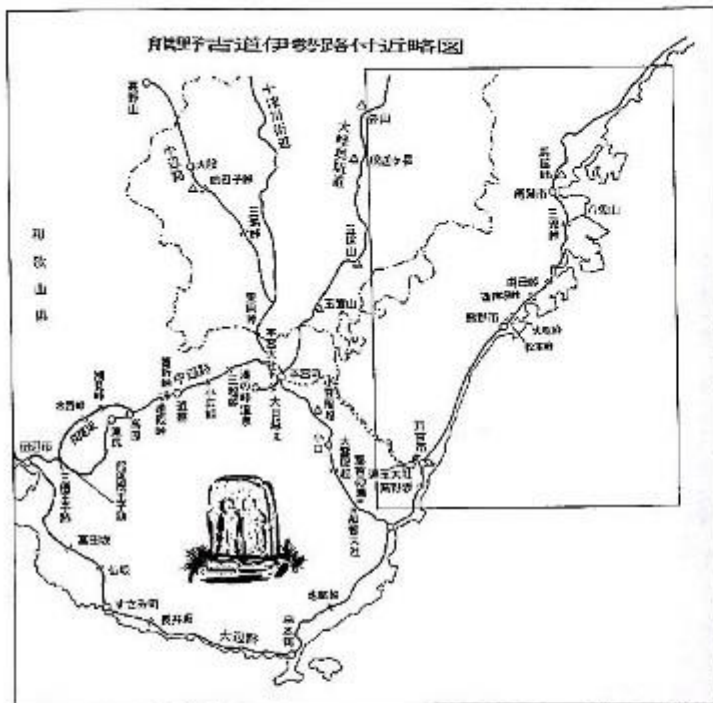
三鬼峠の二体地蔵

熊野街道（古道）はその名の通り通り、熊野を志向する道である。平安時代後期に熊野三山への信仰が急激に高まり、鳥羽上皇、後鳥羽上皇、後白河上皇の熊野御幸が代表されるように、熊野詣での最盛期を迎えた。そして後白河上皇の撰といわれる『梁塵秘抄』に「熊野へまいるには、紀路と伊勢路のどれ近し」とれ道し。広大繁栄の道なれば「紀路も、伊勢路も、道からず」とあるように、平安時代後期にはすでに伊勢から熊野へ通じる道が開かれていたことが読みとれる。これを別の面から、熊野三山を中心と考えると、中辺路・大辺路を経て和歌山に通

八鬼山（『西国三十三名所図会』より）



じる道は「紀路」であり、八鬼山を越えて伊勢に通じる道は「伊勢路」ということになる。しかし伊勢路を覚えて熊野へ向かう人を主にして見れば、「熊野街道」や「熊野路」の方が一般的な名称となろう。伊勢路は伊勢市山口を起点としている。山田から渡しまつ川を渡り、田丸までの道を初瀬街道と伊勢路との共通路としている。その後田丸で分岐して、女界坂、初瀬峠、高瀬峠、八鬼山越え、南河内、二本岳峠、津神坂峠、大吹峠、松本峠とおおむね海岸



七曲リから杉茶屋一帯塚峠へ



近くの峠を越えて笠置に至っている。伊勢路は道の状況が悪く、あまり改修されることなかったといわれるが、全円で多数の多難地帯を通ることあり、土砂崩失や崩壊を防ぐために石垣道が各所で整備された。こうした努力があったことか、現在、伊勢路には、おおよそ中辺路・大辺路に比べて、多くの石垣道が残っている。今回は、尾鷲市・熊野市を中心とした比較的山歩きの対象となるコースを選んでみた。「塚下から馬越峠越え」「かご立岩から八鬼山越え」「南河内から津神坂峠越え」「笠置須から大吹峠・松本峠越え」の4コースを紹介する。

鷲下から馬越峠越え



馬越峠(「西国三十三所名所図会」より)

「JR和歌山からバスに乗り、鷲下バス停下車。バス停「山」のコンクリート道を通る。石段を登るとだだっ広い草むらに覆われるが足元には基のした石畳がはっきりと残っている。石畳は紀州藩主徳川吉宗が、雨の多い一帯から道を守り、かこの道行を容易にするために造らせたものという。

地蔵尊を左手に見ると、小さな谷を横切り、なごら登ると、杉の植林に囲まれた一里塚跡に着く。旅人や遊礼者の利便と休息のために、一里ごとに道の両側に塚が築かれ、その上に松と山椒が植えられていたものであるが、今は何の面影も残っていない。

「石畳の昔を踏んで、道はいよいよ険しさを増してくる。杖が折られるほどかかえ以上もある巨石による石畳が往時を偲ばせている。杉・檜の巨木を向く幅の広い石畳道が続く馬越峠に登り着く。江戸末期の俳人、可南園松之「一夜は花の上に音あり口の水」と刻まれた印碑が建つ。隣に茶屋跡を示す石垣が残っている。

「西国三十三所名所図会」の「馬越夜」の項に「峠の上十一里、坂路すべて数石にしてすこぶる険しく難所なり。峠には地蔵堂ありて、前に茶室一軒あり」と記されて

天狗倉山天狗岩

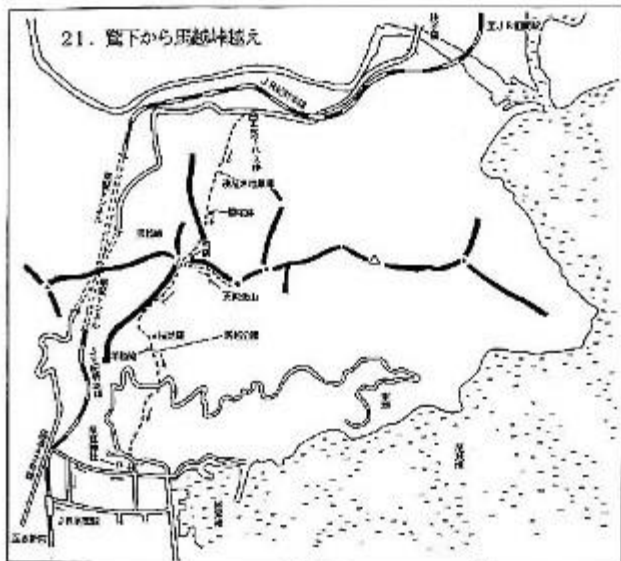


不動池



いるところだ。同「名所図会」の挿入絵には、印碑の北隣が行脚地蔵堂のあったところとして立派な御堂が描かれている。

峠を南に越えれば泉原市街。ここでは軽を左へ尾根伝いに登山道を通り、天狗倉山に登ることにしよう。少しで反転板が立ち、右足下に懸垂の町並みが広がっている。懸垂板の入り板が足根に張りつき、露出した岩と木の根をなう者となる。天狗倉の鉄パンを登ると、天狗倉山山頂に近く、樹林のすき間から八景山、高峯山、熊野灘



21. 鷲下から馬越峠越え

の眺望が開けている。大岩の下には不動明王像が祀られている。

馬越峠まで引き返し、足懸川に道をとると、再び見事な天狗岩が眼下に延びている。

野筋差し込め木漏れ日が地表を透え、てしとりのこした情緒を感じさせる。水呑み地蔵と呼ばれる地蔵像を後になおみると、馬越公園があり、園内には真新しい行若堂が建つ。参道をたどると不動堂があり、不動明王と地蔵菩薩が祀られている。

行若堂は足懸川コンクリート坂を下ると、北浦町と水地をつなぐ水道にである。なごら下ると、右手に足懸神社、さらに「天狗岩」へと向かう。

「コースタイム」

「JR和歌山駅(バス) 鷲下(15分) 夜泣き地蔵(20分) 一里塚跡(20分) 馬越峠(30分) 天狗倉山(20分) 馬越峠(20分) 馬越公園(30分) 水道(20分) 「JR和歌山駅」

「地形図」2万五千1引木浦・泉原(隣い合わせ)

泉原市教育委員会

054972(2) 1111

(定規) 弘垂

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。
(定休・火曜日)

〒804 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5768
FAX (075) 231-6318

山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

かご立場から八鬼山越え

JR大宮線浦里下車。西に向かつて東端を進む。しばらくして熊野前には津かが井跡。標高が右手に見えてくる。井跡岳の前で車道を左にとりてJR紀勢本線の鉄道をくぐり、向井の集落を通り抜ける。東那石山の夕景が正面に見え、左手に林道が切れ込んでくる。林道入り口には石標が立つ。

「ままになるなら、あの八鬼山を横断せよ」と、道標が示している。

石標は八鬼山越えの入り口を示すもので、尾瀬湖の二道が刻まれている。

八鬼山越えは、『西国三十三箇所全図』に、「上り五十二丁、下り四十五丁、山腰険阻にして至つて難所なり。地上に多く石を敷きて道を通り易しといへども、坂急なるを以て杖をつき過つては必ず転倒す。下りを信むべし」と記された峠越えの道で、熊野古道の難所のひとつとして知られている。

林道入り口から300mほど歩を進めると、高台に上人塚が祀られている。このあたり一帯の田を拓いた人の徳をたたえ、田の神を奉ったものという。

八鬼山越えは、この付近から山頂を縫ってかご立場へと向かうことになるが、真砂川沿いに林道が出来たため、草むらの下に細々と石標が残るのみで、かつての古道は荒れるにまかされている。

ここでは林道を進んだ後、道標に従って左に山道を進む。すぐに左手から石壁の古道が合さり、檜の大木に囲まれたかご立場に着く。ここは養蚕家のあったところで、傍らには十二町の地蔵菩薩が歴史を見据えるように並びそびえ立っている。

標高石後は伊勢に道を広げた新橋筋と宿主を兼ねた御師と呼ばれた人たがらによって、十五世紀後半の天王年間に着納されたもの。

またこの石標は養蚕市大浜から八鬼山三鬼峠に至る一町この道筋に置かれていたもので、町名も呼ばれ、二十四体が現存しているという。記元には清水が湧き出ている。町石に埋められたが、石標は遺跡となる。土曲がりと呼ばれるジクザクの急坂道となる。尾根に出たところから、背後に尾瀬市街、馬場峠から天狗岩山方面の風景が大きく開ける。やがて二十五町の町石に着く。

八鬼山越え第一峠跡で、徳川吉宗が紀州藩三であったころに築かせたものであるという。右には標高の老木が立つ。すぐ下に風吹茶屋があって、ワラジなどを売っていたというが、今は何もない。

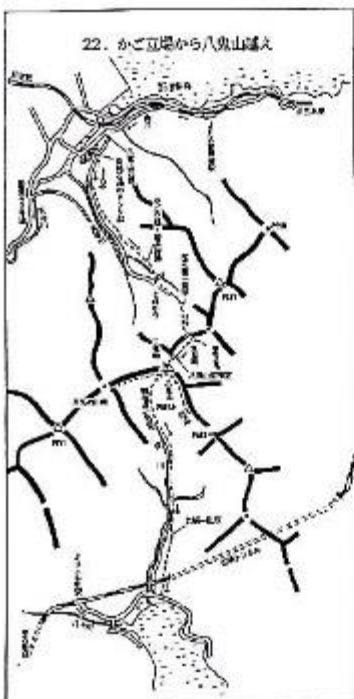
町石に導かれたら、新道に沿った登りとなる。樹林道を抜けると四十二町の立つ丸東峠に登り着く。「左、くまみち、右、みきさとろ」と導かれた石標も立つ。足下に丸東峠の本湖、丸木浦と熊野灘の巨巖が閉じている。

右へ向かつて山腰道を進む。うっそうとした樹林の枝は勢いよく空を覆っている。山の冷気が心霊野く肌をうつ。しばらく歩く

と三三三菩薩を祀る八鬼山元神堂に着く。水溜りあり、一目入るのには良いところだが、伊勢側では、伊勢神宮に参拝した後、那

智一寺社に詣でるが、途中にあるこの八鬼山元神堂は別荘として有名であったという。今は無人となっているが、終戦後しばらくの間は人も住み、おこもりなども行われていたという。菩提堂の隣が中茶屋のあったところだ。その上に山脈を遡りしたという万葉集の歌が作られている。「西国三十三箇所全図」に、五葉堂付近の風景が説明に描かれている。

なおよまると二鬼峠に達する。傍らに三体の石地蔵尊が祀られ、左に登ると八鬼山山頂となる。小さな広場の山頂には熊野貞登石があり、八鬼山最高所である。



とこで五十四町のある三三三菩薩は茶屋のあったところで、江戸時代の道(旧道)と明治道(新道)との分岐点でもある。江戸時代の道は三三三菩薩から左へ尾根を伝い、途中から右側の一里塚に下る道。一方、明治道と呼ばれる道は本川に沿って一里塚に出る道で、明治初年に付け替えられた比較的新しい道である。

ここでは後者の明治道を進ぶこととする。矢の川峠への分岐を右に開き、左へ石壁の敷かれたジクザク道を下る。右、左に流れるせせらぎが徐々に川幅を広げ、大きな吉川の流れになると林道に飛び出す。

コースタイム

- JR大宮線浦里(9:20) 八鬼山麓入り口(10:00) 上人塚(40分) かご立場(1:15) 菩提堂(1:30) 九鬼峠(2:00) 熊野元(2:10) 三三三(2:20) 八鬼山(1:15) 林道(1:10) 名所一里塚(40分) JR三木駅
- 地形図 2万五千1:1尾鷲・賀田
- 問い合わせ
- 尾瀬市教育委員会 0556-22-1111
- アドバイス
- 二里峠から吉川の林道に出るまでの新道は、季節によっては敷に開かれることがあるため注意が必要。
- 三三三菩薩から名所の一里塚に向かう旧道は石壁が敷かれているが、所々で道が崩壊、敷に覆われたところもあり、歩行困難。

浦母峠から逢神坂峠越え

「JR熊野本線の熊野と並行する道となり、左手には飛鳥神社の大きな森が見えてくる。神社手前の路地を右に入ると、小さな祠があり逢神神が祀られている。向かって右が男神、左に女神が彫られているが、厚紙が著しく、判別が難しい。逢神神は逢神神とも、サエノカミとも呼ばれる神で、道の境界に立つことから行路の神、旅の神として平安時代から室町時代にかけて流行した信仰といわれ、信州あたりにも最も多くあり、この付近では珍しい。」

とここで江戸時代の守家、十返舎一九が「この伊勢道に入り逢神神を通りかかっている。その著書『金の草鞋』の中で、「山を下りて二木の宿、このところ入道なり、此宿より曾根へ渡船あり、陸路に至て難所なり、曾根の宿より曾根太郎坂・山中に茶屋

あり、また曾根次郎坂と云ふあり」と、書き記している。

同じくここを通りかかった西行法師は、親切な老僧師に舟に乗せてもらって渡舟かな智因渡を渡り、二木庄に上陸したという。この時、詠んだ歌が山家集に収められている。

「舟師たる 浦の海二人 三問わん 波に動きて 幾世道にき」

西行はこの後、八鬼山を越えずに舟で錦浦に向かったという。

話をもとに戻そう。飛鳥神社を通り過ぎた辺りで曾根の奥路に入ると、曾根正屋敷跡がある。曾根正屋敷は近江国の六角源氏の血をひく佐々木右衛門正吉がこの地に入郷した後の名で、近藤八か村を統治、名臣主として慕われたという。曾根の南西、海拔1800mの城山には山城跡が残っている。

曾根坂峠から買田河を望む



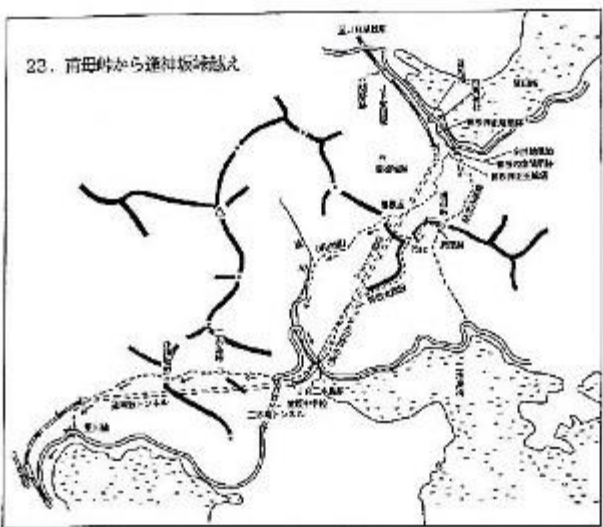
る。

前方の向井地蔵地の下付近で曾根坂(明治伝)と浦母峠への道(曾根次郎坂・山家集)が分岐する。ここでは左へ、後者の道をとる。『紀伊経路土記』に「曾根よりの登りを曾根次郎と云ひ、此方よりの登りを曾根太郎といふ。……」とあるところだ。

すぐに曾根の向井所跡があり、碑の広い石垣が上に延びている。船のように静寂

が立ちこめ、木も、草も、生き物もじっと息を潜めているかのようだ。道筋には還礼供養碑がひっそりと立っている。

浦母峠には惣次郎殿の平地が残っている。



る。浦母峠を後に尾根道をまっすぐ登り、途中で、曾根太郎坂の道と分かれ、ハイパス道を峠出、明倫堂の曾根坂峠に合流する。右手には西田河の眺望が大きく開けている。

峠を後に左へ横林帯の道に入る。細く間こえていた谷川のせせらぎが大きく聞こえるようになり、小さな沢を渡ると林道に出る。ここ逢川は、川を流し以西を熊野の国、以東を伊勢志摩の国とし、それぞれ別の神がこの川の川で逢われたことによる者という。しばらくして國境と合流する。左へ國境を下るとJR二木宿駅である。

JR二木宿駅の北側の森から逢神中学校の橋を通り抜け、國道を横切り、二木峠峠への登りにかかる。じつじつと古道の面影に変わりながら

ら「砂一歩危を潜る。二木峠峠を越える」と記された山道となり、途中に「施主善吉」と記された供養碑が立っている。ひと登りで逢神坂峠である。逢川と同じく二木がこの峠で逢われたことによるという。やがて道々と続く石畳道となり、新田、浦の集落に降り立つ。國境を出て、田川橋を渡ると「石なら山、左いせ道」と深く刻まれた遺構石が立っている。JR新田駅はもうすぐだ。

◆コースタイム

JR買田駅(10分) 逢神神(初分) 曾根坂(分) (60分) 浦母峠(15分) 浦母峠(10分) 曾根坂(50分) JR二木宿駅(40分) 二木宿(30分) 逢神坂(50分) 新田駅

合流形 2. 万全 1. 買田 関い合わせ

熊野市教育委員会

05978 (9) 4111 (尾崎 弘志)

波田須から大吹峠・松本峠越え



波田須の石畳道

「JR新鹿野駅下車。駅を出ると目の前に新鹿野の砂浜が左右に広がっている。右に道をとり藤司神社を廻り過ぎる。新鹿野を左手に詰めながら回道を歩くと、右手に新鹿野中学校の建物が目えてくる。中学校の手前、斜め右上に道が切れ込んでいます。」

トンネルの上を越え、貯水タンクの横を廻り過ぎる。右手に農家の向があり、先ほど分かれた回道と合流する。

しばらく回道を歩くと行く手に波田須トンネルの入り口がぼっかりと黒い穴を空けている。手前の右段を左に登り、峠に出る。この辺りは、かつての茶屋のあったところ。足下に回道が並行する道となる。左前方には熊野灘の眺望が開けている。山肌に残りつくように巨岩が並び、軒下には苔むした石畳道が散々と残っている。波田須神社の小広場で、回道に降り立ち、再び回道を歩くことになる。

左手息下に広がる波田須浦の海岸は不老不死の薬を求めて衆の徳福が上陸した地と伝えられている。

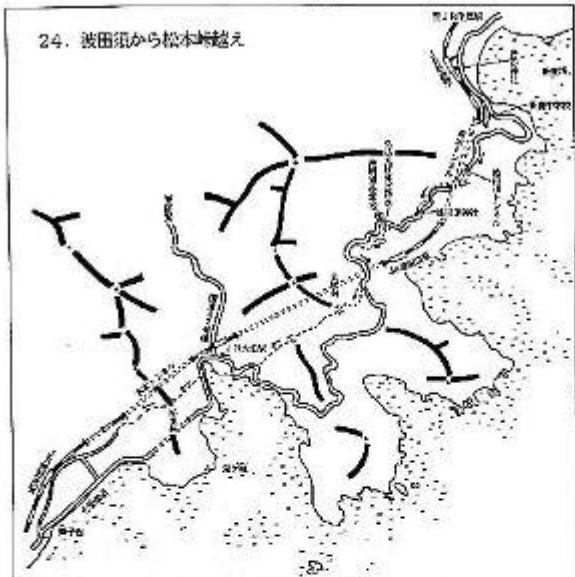
右上に小学校が近くなる頃、回道左下の波田須集落の路地に入る。小さな流れを渡

松本峠から七里御兵を望む



ると再び石畳が現れる。弘法大師の御足跡水があるが、そのあとすぐに新しく作られた車道によって土境道が寸断されている。車道をしばらく進むと傍らに「左なら山」の道標が立っている。

再び回道と合流。背後の波田須集落が遠くなる。右手の旧回道に入り、少し左のはえ込んだ石段を登る。しばらくすると二日道の前影が残る石畳道に変わり、大吹峠に登



24. 波田須から松本峠越え

り待く、茶屋跡を示す石垣が残っている。大道には各所に茶屋跡があって昔を想はせているが、どの茶屋も承人が一息つきたくなる。実に絶妙なタイミングで設けられていたことにも、今さらのように驚かされる。

きれいな竹林の間を下降する。かつての田畑が、そのままだと残されているため、草が少しはえ込んでいます。足下には、はつきりと石畳が残っている。再び回道と合流する。

回道沿線

に入ってから少し、右手に松本峠に登る道を見つけた。小さな谷間に沿っての急坂の道となる。ここも、草が少しはえ込んでいますが、峠が近くなると広い石畳の道と変わり、松本峠に降り着く。等身大の熊鷹が彫られている。茶屋跡と熊鷹跡を示す石垣で囲まれた敷地が

ある。

石畳道がまっすぐ下に伸びており、眼下には七里御兵の海岸線がきれいな風景を描いている。車道に降り立ち、右、左へ、熊野市の商店街を通り、JR熊野市駅へと向かう。

《コースタイム》

- JR新鹿野駅(5分) 藤司神社(40分) 波田須神社(30分) 大吹峠登り来口(15分) 大吹峠(40分) 松本峠登り来口(20分) 松本峠(40分) JR熊野市駅
- 《地形図》2万5千1置田・磯崎・木本(開い合わせ)
- 熊野市教育委員会
- 055978(9) 4111
- 《アドバイス》
- JR波田須駅を中心に「波田須の道」が整備されている。(道標あり)
- (見晴 弘法)

お知らせ

この「熊野古道を歩く」シリーズは今月号で最終回です。合計24コースを紹介しましたが、歩かれた方は、そのご感想などお寄せ下さい。(編集室)

近世の伊勢街道ハイク⑥

暗越奈良街道 (河内く生駒山く大和)

近鉄枚原駅→暗峠→雨生駒駅→持大峠→妙楽園→尼ヶ計取(つぎ)

中村敏文

近世の大坂からの参宮は暗峠越えと竹内峠越えが主要な道筋であった。暗越奈良街道は大坂府の高槻橋東詰の旧道筋元橋から暗峠まで17km、暗峠から奈良の旧道筋元橋のある三条寺の窟沢池手前まで18kmの行程である。早くから宣伝され多くのハイカーが歩いたコースゆえ、今回は道筋に残された石造物を探索して歩く。

枚原駅から河内四丁の宮を跨る旧官幣大社の枚原神社に詣で、左へと山程の故道筋をたどり、熊野谷を渡る国道308号に到達された奈良街道へのバイパス同様、車が通るので、峠越えは5時から午後4時迄に抜けるようにしたい。かなりきつい坂もある山道から峠までの約1時間近くかかる。

「菊の香にくらがりのぼる前句かな」
枚原公園入り口に明治二年(1889)建立の芭蕉句碑がある。一丁ほど下の勸成院には地元文人が寛政十一年(1799)に建てた句碑が、堤坂から発見されて立っている。芭蕉は元禄七年(1694)9月に奈良から暗越えて大坂へ向かい、この句を詠じた。

峠近くには大陣笠が修復され今なお弘法水が湧き出し、弘安七年(1284)銘の碑認められた笠塚には古風な厚肉彫の同形彫坐像が刻まれている。

暗峠は近世の松原宿と奈良町間の宿場で、郡山藩重兵士五万石の本陣が大和側に置かれ、大和郡・白河原・河内屋などの旅館や茶屋など二十戸あまりあったようだ。現在は河内郡の町影もなく僅れ十戸足らず

色瀬句碑 (東大阪市豊浦町)



の尻交と、矢田出迎え地藏堂の手前に太神高野千夜燈、府屋環境に安政六年(1859)銘の遊樂が残るだけである。生駒山宝山寺(二五丁、奥取山弘業師(鶴林寺)へ十五丁とある。

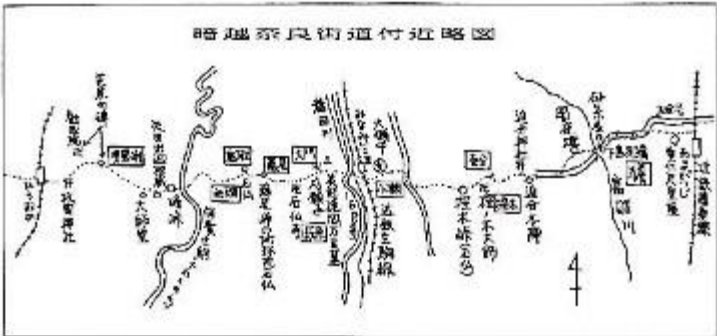
暗越奈良された石造物の端にある水堀点は4.56m幅で、生駒山642丁の三角岩交差は小1時間の上りである。

信吉生駒ハイキングコースを少し北上すると笠原に建つ小堂に、井原種という文永五年(1228)銘の石仏がある。

暗峠から生駒谷の細田川までは橋渡が350丁、河内側に比べて緩い下り坂を4km、峠近くまで崩壊された細田の縁く西畑から丸取・藤尾・大向を通り、生宅園苑が進む萩原へと折れられた円通を下る。

西畑の東はすれに「旅ゆく芭蕉」の石碑があって、文化七年(1808)銘の摩崖行書碑が巨岩の奥に見える。国道51号時に

暗越奈良街道付道路図



榎木峠の石地蔵 (大和郡山市榎木)

整理された室町以降の石仏や板碑の類が、石佛座のかたわらに所収しと設置してある。茶屋があったという薩摩師の小堂の同形石仏は、1丁大の薄い平肉彫で一部欠けているが文永七年(1270)銘がある。大門への直道分岐の南に阿弥陀三尊を本尊とする岩屋千石位寺がある。秘仏の本尊は特定の時期以外は拝観できないが、鎌倉時代の代表的石仏で水(三三)(一三三三)と大願王行が太子(三三)の銘がある。境内に鎌倉様式の大五輪塔、室町時代の名号板碑、獅子(三三)板碑が並列している。

後醍醐天皇の事前の路地を北へ上ると古い十三重石塔を築いた慈徳寺で、お堂内の2丁大の永仁二年(1212)銘の子安地蔵は使役作とも推定される。

枚原公民館裏手の丘が奈良遺跡四方宮の跡で、発見された草鞋は東京博物館に保管されているが草鞋の石佛が建てている。天政天皇より遷徙を賜り送五位以下主殿・寮・職になり、神皇五年(728)切越で遷去と刻んである。

龍田川を渡ると橋渡宿と交差する小祠で四三騎駒がある。暗峠と榎木峠の間にある小祠は奈良街道の休息所で、榎木屋・山口屋などの旅館や茶屋があった。

小瀬公民館前は康永四年(1345)銘の十二重石塔が残る観音寺で、塔の礎石から金剛仏が発見されて話題になった。

小瀬から榎木峠への約5kmの上りは新興住宅地を大瀬中学校まで進む。学校の塀から東へ入って赤松と榎木林の道を歩く。半時間程で峠に着き、左側に江戸初期作の奇身大の石仏蔵が見える。榎木の山村は数層の三層石燈籠といふ大陣笠がかった。近世の榎木には中區兵衛茶屋があったようである。矢田自然公園の北端である奈良・郡山間の境界を「下」下ると、「下」供

新ハイキング選書

【第6巻】再版出来！
花の山を行く
松本雪枝 著
【好評発売中！】
定価1650円（税込）

【第8巻】
旅がらすの山
富田弘平 著
【好評発売中！】
定価1650円（税込）

【第9巻】
一等三角点の名山100
沢 聰 著
【好評発売中！】
定価1650円（税込）

【第10巻】
四季の山
沢 聰 著
【好評発売中！】
定価1650円（税込）

【第12巻】
東海自然歩道を歩く
後藤典重 編著
【好評発売中！】
定価1700円（税込）

【第13巻】
甲斐の山
小林経雄 著
【好評発売中！】
定価1800円（税込）

【第14巻】
百歳までの山登り
富田弘平 著
【好評発売中！】
定価1800円（税込）

●掲替のご注文は 発行所 新ハイキング社 振替東京3-144110 電話(03)3915-3110
送料当社負担 東京都北区滝野川7-6-13

山と高原地図シリーズ

定価 各700円（税込）

1 北アルプス地図	34 奥山
2 白馬山	35 朝日・出羽三山
3 岩手山・奥羽山	36 奥山
4 利根山	37 奥千蔵山・奥千蔵山
5 上高地・穂・穂真	38 奥千蔵山・奥千蔵山
6 奥千蔵山	39 八幡平・奥千蔵山
7 奥千蔵山	40 十和田湖・奥千蔵山
8 中央・南アルプス地図	41 ニセコ・奥千蔵山
9 木曽駒・奥千蔵山	42 大雪山・十勝岳
10 甲斐駒・北岳	43 奥山
11 奥山・奥千蔵山	44 奥山・奥千蔵山
12 奥山・奥千蔵山	45 奥山・奥千蔵山
13 奥山・奥千蔵山	46 奥山・奥千蔵山
14 奥山・奥千蔵山	47 奥山・奥千蔵山
15 奥山・奥千蔵山	48 奥山・奥千蔵山
16 奥山・奥千蔵山	49 奥山・奥千蔵山
17 奥山・奥千蔵山	50 奥山・奥千蔵山
18 奥山・奥千蔵山	51 奥山・奥千蔵山
19 奥山・奥千蔵山	52 奥山・奥千蔵山
20 奥山・奥千蔵山	53 奥山・奥千蔵山
21 奥山・奥千蔵山	54 奥山・奥千蔵山
22 奥山・奥千蔵山	55 奥山・奥千蔵山
23 奥山・奥千蔵山	56 奥山・奥千蔵山
24 奥山・奥千蔵山	57 奥山・奥千蔵山
25 奥山・奥千蔵山	58 奥山・奥千蔵山
26 奥山・奥千蔵山	59 奥山・奥千蔵山
27 奥山・奥千蔵山	60 奥山・奥千蔵山
28 奥山・奥千蔵山	61 奥山・奥千蔵山
29 奥山・奥千蔵山	62 奥山・奥千蔵山
30 奥山・奥千蔵山	63 奥山・奥千蔵山
31 奥山・奥千蔵山	64 奥山・奥千蔵山
32 奥山・奥千蔵山	65 奥山・奥千蔵山
33 奥山・奥千蔵山	66 奥山・奥千蔵山

の森」への分岐路に若く、「二基の道標は矢田山金剛寺へ十五丁と、三輪明神と樺木峠への分岐を示している。

二支路を左に樺木に覆われた街道を1、ほど上がりきると追分神社がある。近世の追分村は茶屋が二軒と追分本陣の御井家を含め三十戸の村村であった。現社村井家は本陣の御井家の屋敷が残り、門前に追分の松の根株と松平阿波守御符の遺札等を残している。本陣前の分岐路に鞍馬二基の道標には、「石火坂道 左こほり山道 天保七年（1836）」と「右こほり山 左はせいせ 安永二年（1783）」とある。

追分から下湯呂橋への国道は真→すくについでいるが、旧道は北へそれて山ノ上の村に入り、天保七年（1836）路の木橋に開張の立つ湯を宮川へ向かう。

下湯呂橋を渡ると砂茶屋で交差点の北側に寛政六年（1792）銘の地蔵石仏がある。奈良街道と山ノ上からの湯流街道が交差するこの地は、中や西兵衛屋・西大寺屋等の茶店があり砂茶屋といわれた。

砂茶屋の東方は五条山の丘陵地で、湯流の密元がある。湯流は天正年間（1573-1582）に郡山百五右衛門左衛門尉が、屋敷から陶工を招いて始めたがその後衰退し、宝暦年間に郡山十

五右衛門の桶沢藩主が道戸から陶工を入れた再興している。天保時代に奥田木白が造いた作品が赤清焼の桶を新めたという。

五条山の緩い丘陵を上り下ると菅原の地で、垂仁天皇陵の北側を抜けると尼ヶ辻駅になる。近鉄横線線路を越えて二交差を過りも行く北側の伏見丘に、鎌倉末初作とされる軒大の阿弥堂石仏がある。さらに進むと秋篠川の流橋手前の地蔵堂内に、文永二年（1253）銘の2層大の立派な地蔵石仏が祀られている。尼ヶ辻から奈良への二交差は現在ではハイキングコースとしては不適当である。

●昭文社の「山と高原地図」は最近版として毎年更新発行されます。お山の情報はなるべく最新版をお使いください。お山の情報はなるべく最新版をお使いください。

●昭文社の「山と高原地図」へのご注文は、昭文社がご用意した。本社編集「山と高原地図」は毎年お楽しみにしてください。お山の情報はなるべく最新版をお使いください。

昭文社

本社 東京都千代田区九段南1-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪府大阪市西中區8-1-1-23 電話06(303)5721(代) 〒530
営業所 札幌・仙台・横浜・千葉・浦和・立川・名古屋・東京・西宮・福岡

ミタライ溪谷から洞川温泉へ

松永恵一



もみぢ葉よ、散らずにいて欲しい

ゆく秋
金色の ちひさき鳥の かたちして
御香るるなり 夕日の閉り

夕日の丘にそびえ立つ一本の銀白の大木、
細の色に染まった銀葉の裏面が、はらはら
と踊りながら散っていく。そのひとつひとつの葉が輝かしい色を帯び、まるで金色の
小鳥の形をしている。

おちちとして、今朝の寒さを 驚きぬ
深しとしと 崖の落葉深く

伊藤なつみ

庭におりた。とみると、おもいがけなく
今朝の寒さに驚いた。みればわが庭にも晩
秋の季節が深い。勢もしとどにぬれた朝の
露も葉がきらきらあつて散りこいでいる。

興秋の季風

露に濡れた袖の落ち葉

それは作者の若しい思いに重み合わせて夜
露露を染めてゆく。

山月に 涙のかけたる しがらみは
濡れもあへぬ 紅葉なりけり

山あいを流れる谷川に風がかけ流した種
（しがらみ）と見えたりは、流れること
がでまないで散りたまっている紅葉である
ことだ。

緑、赤、黄色に飾られた山の秋が、夕暮
れ前の淡いさんご色の光を浴びていた。紅
葉が強く燃え上がる色は、歌舞伎の舞台に
並ぶお雛子の道中が打ち鳴らす三味線を市・
太鼓の音を想い出させる。

洞川
後藤道の即興 役行者が約二百年余
り前、洞山したと伝えられる常陸大峰山
（山ノ内町1718・218）の登山口に位
置している古野島天白村洞川は、山ノ内岳
から流れる山ノ内その前に家並みが連な
る集落。大峰山守護寺院のひとつの洞川寺
の門前町。大洞山の首として発展してき
た。集落の人達は役行者に使役された後鬼

の子孫という伝承を持つ。

その地名は、村の西端が「しほ」ほどさき
の左手の山ノ内道にある洞龍窟（現在は龍
窟の遺跡と表記される）から流れる川に
由来すると「念見洞川」といふ。この途中
の不動ヶ淵の水は、地下を流って、泉落の
中央の洞窟の龍神池の竜の口から湧き出
ているとされる。そして洞龍窟と龍泉は、
山ノ内町役行者の修行場とされた。

修行者が必ず身を清めることになってい
る龍泉寺は、真言宗醍醐派の別格本山。後
行者が八丈地下を救った寺。昭和二十一年
3月の洞川の大火で灰燼に帰したが、井伊
家から遠祖城内の大正天皇の行在所だった
龍神の古寺を受けたらして、昭和二十五年
には本堂が完成。それを機に境内の女人禁
制を撤廃した。水尊不動菩薩、胎土の知渡
大菩薩、聖徳太子をまつる本堂。八丈造王
尊、光徳の御尊をまつる御聖殿、彦根城か
ら移した陣馬、龍泉、水行場、女性の修行
所に設けた洞土の高。二つの浅降道場を擁
する巨大な境内には供養塔が林立する。

龍の口から「んごん」と湧き出る清らかな水
をたたく水行場は、いまも女人禁制。こ
の龍の口には龍神が女性に化して寺男と結
婚し、子供を産んで、蛇体で現っている蛇

を見つれて去っていったとの話が伝えらる
ている。

洞川寺の隣には天白村立資料館がある。
天白川の歴史や民俗、自然、そして大峰信
頼について、写真や文庫の資料などを通覧
役行者などとともに説明している。後藤道
で傳へ、役行者で河。 という入はこ
で全体像をつかむとよい。

洞川を訪れる山ノ内への入道が買って結
ぶのが洞川特産の青鬼の裏巻糰子だ。「神
楽大菩薩（役行者）神伝、聖徳天皇の命色
の霊丹」といふ。戦前は龍泉助産所が、それ
で餅をハダを巻いてたいて巻餅し、山ノ内
の妻の水で練り上げて調理していたが、現
在は大峰山守護寺助産所が調整して
ている。主成分は玄米などのヘルペリン。

「良薬は口に苦し」との通り、強烈に旨い。
食べ過ぎ、吐気、急激な下痢、二日酔
いにも効くといわれる。黒炭並みの効果。
「奈良中野郡史料」は伝える。役行者
が龍神の首で修行の罪障をする毒蛇を金
剛杖で行ったところ、蛇が黄金の皮の粉を
蛇につけておぼろ。これを見た行者は
蛇を忌避して、その製法をきき出し、洞川
の古祖の後鬼に伝えた。これが龍泉尼防の
おこりである。

大峰の酒氣

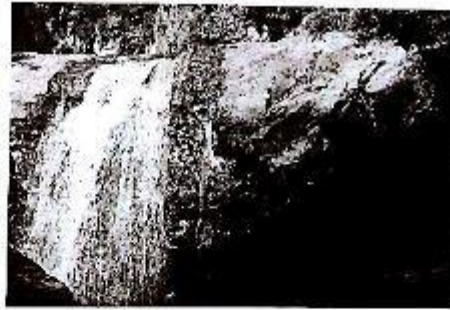
『今昔物語集』巻第三十一には、大峰を
通った酒が、道に迷ったあけく、人目に届
て酒の濁り出ている果を見つけたらある。
不思議に思っつて果を見てもつていたら、
その果の長ところへ連れて行かれる。こ
の果へやうてきた様子を訊ねられ、道に迷っ
て思ひがけずしてやうて来たことを答える。

「この果のゆゆしき秘密を見た人が、拒っ
てからこの果の様子を人に告げることと思
れて、果の呪として必ず殺す。おかげでこ
の果があるといふことは誰一人知らないの
だ」

「伝説修行者の罪咎ない者を殺さうとな
さる。それこそ極悪の罪です。私の命を助
けて下さい」

ところが、絶対に口外しないという誓約
をして流がして貰いながら、情報もなく口
も軽いつつだったので、故郷の村に帰って
全うなことにはこの果の奇案を、べらべら
らべら大派手な語り語り、ついに血
気にはやも者らの案内役をつとめ、再び大
峰山麓の山道に分け入る。その血気の者や、
誰一人洞川へは戻らなかつたという。

谷深い大峰山系の山道は、昔から神仙境
のイメージがあった。



ミタライ滝

コース概観

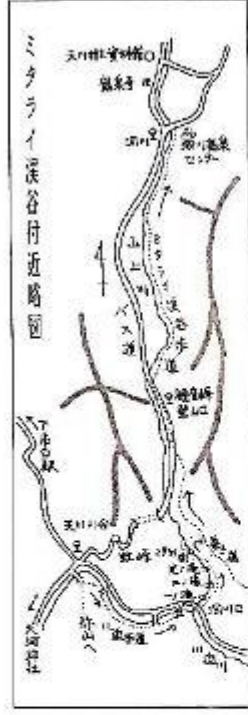
今回のコースは、新緑と紅葉の美は関西一といわれているミタライ渓谷。巨石・奇岩とエメラルドグリーンの水。大小さまざまな滝がおりなすすばらしい渓谷。自然の創り出した傑作にはれはれしながらゆくりと通り、大峰干立瀑・瀧川温泉まで汗を流し、疲れを癒す。湯ったり、ノンビリのファミリーハイキングコースである。

近鉄下市口駅で下車。9時15分発の瀧川温泉行きのバスに乗る。余部・葛城山麓の温泉を流しながら天川川合流の湯時分分分、バス停から天川に架かる吊り橋を渡る。直進すれば赤川。左に川道川に沿った紅葉遊路を歩く。関西電力の発電所を見たら川道川遊道の入り口。ここまでの道が余りに静かだったせいか、川の流れる音が大型バスに呼び寄せているように聞こえる。川の瀧一帯に巨石が横たわり、岩を噛んで流れる清流は、大石の角を丸くえたり、瀧川深谷の美しい景観を堪能する。水路の上をゆき、階段を上り、岩壁の上を登り、岩の底の下を通る。深谷を来しみなながら行く。山上所出合いの瀧川口。トイレ、休憩所、売店がある。ミタライ渓谷の案内板でコースを確認しよう。日多くらむほどの紅葉、流れ落ちる清流、赤い吊り橋・梯子がアクセントとなって、ミタライ渓谷の美しい景観を堪能する。入り口にかかるとは一ノ滝。鉄の梯子を上がり、二ノ滝の瀧の真上にある吊り橋を渡る。吊り橋からの眺めは絶景。一ノ滝の上は広い岩盤が広がり、二ノ滝の大きな瀧へと続いている。二ノ滝の落差は7.5メートルだが、幅が広く形が整った滝。流の正面から眺

子を上がり、吊り橋を渡り、一枚岩のナメ床の広がる河原に出る。目撃まりの岩の上に腰を下ろし、流れに耳を澄まし、空をとおるさまざまな形の雲の来去を眺めながら、パンをかじった。プランターをたらしした熱い紅茶をすすす。つれないように入れてきたシュークリームを出して、野暮に数行のメモを書きつけながら、はみだしたクリームをなめる。いつになく感動の時間が流れていった。巨岩をぬうように、小さな滝が見えかくなると、岩盤がくりひろげられる遊歩道を歩くと、梯子を上ると遊歩道が現れる。光ノ滝が無直に深い淵をめぐって飛び込んでいる。落差約15分。少し先で道は二つに分かれる。深谷沿いに進むコースと、右上の山脈を歩く遊歩道とに分かれる。水車をよく確かめて放水時には山脈を越くコースをとろう。深谷沿いに進むコースをとる。巻く遊んだ水をたたくて流れているのがミタライ川。ミタライと呼ばれるのは、大きな瀧が二つあるからとか、河北朝の賀、後醍醐天皇の皇子大隆宮(大隆院)上がこの瀧で手を洗われたという伝説を持つので第二瀧と名付けられたとかいいます。

流れの緩に立って来た。水を掬いあげて飲むために、用心深く両膝をついた。エメラルドグリーン、ただそれだけの絵の具を使った筆を流したような色をしていた。ミタライ渓谷の景観を楽しむながら行く。遊歩道は左足の取境に上がる。両音を流しみなながら、よく踏まれた林道の道を瀧川温泉へと向かう。瀧川温泉は山上川畔より湧出する無色透明のアルカリ性温泉。神経痛・筋肉痛・関節痛・慢性消化器病・冷え症などに治療効果があるという。旅館の内部に利用され、古くより旅館者たちが疲労回復に用いていた。この温泉を一般に開放しようとして作られたのが、村宮瀧川温泉センター。名産の吉野杉をふんだんに使い、最高級の高層積の浴槽、木にこだわった木の香がたっぷりの施設。

山の無りに温泉につかりたいと思ってしまう。山の下ったのはいつの頃からだろうか。山から下ったとき、少しでも早く自分の家の風呂に入り、着替えることがなによりだと思っていたのだが。靴を脱ぎ、汗ばんだシャツを脱いで湯につかる。たつぷりの湯がサーッとあふれる。浴槽の木の香がグリーンと漂ってくるのがたまらない。「ああ、極楽、極楽」と思わず口走る。この世の幸せをひとりじめしているようないい気分。細い小道は一切いらぬ。シャワーだの、石鹸だの、シャンプーだの……。ただ、ただ湯船につかっていた。寝ていた足先がいつの間にか自由になった。全身が軽くなった。「ほう」と深く息をつく。



- 〜コースタイム〜
- 近鉄阿倍橋駅(徒歩約1時間) 下市口駅 (バス約1時間15分) 天川川合(40分) 瀧川口(40分) 観音峠登山口(40分) 村宮瀧川温泉センター(バス) 瀧川温泉バス停(バス約1時間30分) 近鉄下市口駅(特急約1時間) 近鉄阿倍橋駅
 - 近鉄阿倍橋駅 下市口駅 7900円
 - 下市口駅 天川川合 11200円
 - 瀧川温泉バスセンター 12800円
 - 〈地形図〉2万5千1:1 瀧川・赤川
 - 〈問い合わせ先〉
 - 天川川温泉センター 074763(0)321
 - 奈良交通吉野センター 07475(2)4101
 - 村宮瀧川温泉センター 07476(4)8000
 - 営業時間 午前11時から午後8時
 - 休館日 水曜日・年末年始
 - 入館料 小人1500円・大人5100円
 - 天川川温泉センター 07476(4)0630
 - 開館時間 午前10時から午後6時
 - 休館日 火曜日・12月13日開館
 - 入館料 2500円

晩秋の山

特選 コースガイド

- ① 雲谷山
- ② 東赤石山
- ③ 須留ヶ峰
- ④ 段ガ峰からフトウガ峰

いよいよ秋、紅葉が峰のように消えた山間の紅葉道、オートバイや車の往來が減った林道、紅葉のシーズンは終わりを、急に入影が少なくなつて、静かな山が戻つてきた。そんな中で、ハイカーだけは恒例的に、



晩秋の山・雑感

夏から秋へ、賑いを見送っていたアウトドア派の姿が見えなくなつた。いつの間にか「ソリ」としてのキャンピングは、釣り人の

ほとんど山の道へ入っていく。いつもと変わらぬ大石を乗り越えている。山の中には道がいらぬ。誰も知らない山は歩けない。元気がない山は歩けない。元気でない山は歩けない。山はハイカーだけの山だ。大いに晩秋にして山歩きを楽しもう。

実りの収穫、秋祭りの、俳句祭、文化祭、紅葉狩りなど、秋の行事がすべて終わった。付き合ひの日常から解放され、これからはしばらくは、自分の好きな山歩きに没頭できそう。

仲間と打ち合わせ、あるいは単独行の計画を練る。「毎週、毎週、よくもそんなに登る山があること」と、深放から脈味のひとも言われながら、心はいつも山に向いている。

晩秋の山歩きは、歩いたものでないといふからない。落ち葉を踏んで雑木林の中、下草はまだ名残りの黄葉を葉にまかせてくれる。くっきりと晴れ渡った空にトンビが輪を描いている。見晴らしと最高の。

晩秋の山は、本山にハイカーのためだけにあるようだ。こんな自然の恩恵を享受できる私たちがハイカーは、なんと幸せだろう。

たのしい山歩き

尾瀬雑考⑩

尾瀬から

「洗沢温泉・奥只見湖へ」

松下 満

尾瀬へ行った人のほとんどは、尾瀬ヶ原・尾瀬沼を通過するだけのようである。今回は秋のおすすりめルートを紹介しよう。

二条滝へはかなりの人が訪れる。昨年度夏台が乾燥し、滝の全景が見られるようになったのは嬉しい。尾瀬ヶ原温泉小屋から二条滝へ向かう。しばらくは木道が続き、やがて地盤にならぬ。左手に只見川の流れる音を聞きながら下る。藪子や藪を取りつけれられた傾斜を下ると、三州の滝が眼下に見渡せる。長さ300メートルと言われる一枚岩を、只見川の豊富な水が滑るように流れ

ていく。(尾瀬温泉・三州の滝、約20分)

急な岩場を下るとそこは大滝、橋を渡る。水はけの悪い地盤をコンクリートした岩場がしばらく続く。藪や鉄線道を登って下ると、復活した展望台がある。落差1000以上の三途滝が目の前に。北向きの流ゆえ、岩の対称にならなかつたか。(三州の滝・三途滝、約30分)

来た道を約5分戻ると御池。洗沢温泉方面への分岐点。ここを左へ、急坂を約30分上がる。浮き石が多いので注意を要する。間もなく小さな滝、奥田代を過ぎると下三州に到着。(二条滝・下三州、約40分)

道標に従って洗沢温泉へ向かう。しばらくはゆるやかな道を下り、やがて崖根に出る。ラグザグの急坂を一気に下ると洗沢温泉への分岐点に着く。右へ50分で洗沢温泉小屋だ。(下三州・洗沢温泉、約50分)

ここからまた只見川の流れる左に見ながら山道を下る。洗沢の橋を渡ると登り道となつて崖根を越え、ゆるやかに下る。樹林の道は楽しい。根の幹に耳を当てると水を吸い上げる音が聞えるようだ。木版道を渡り、ススキの原を抜けると小沢平に着く。(洗沢温泉・小沢平、約50分)

小沢平・尾瀬口間はバス(約10分)を利用。

用したい。歩くときの時間はかかる。但しバスは一日に数本の運行で、予約期間になっているので要注意。紹介したコースの特徴は、編・シラビソ等の原生林の中を歩くという点にある。他にも樺・杉・楓など広葉樹が豊富で、10月上旬・中旬の紅葉は素晴らしいの一語に尽きる。小沢平付近では足にシキタリスの花が沢山咲いている。

奥只見湖は船上からの観光。電源開発による奥只見ダムが完成し、人造湖が出現。最初は湖山湖と呼ばれていたが、いつの間にか奥只見湖と改称された。船は御山平行き四艘、奥只見行き一便が運航されている。6月上旬までは新緑と湖面の映りなどのコントラストが良い。秋は懐かしいばかりの紅葉で、おもむき船上に小学唱歌「もみじ」の合唱が始まることもある。

整料の御山平・奥只見ダムよりJR小川駅・湯田駅までのバスが運行されている。また、沼山峠より尾瀬口行きのバスを利用すると、御池までの間で標平(後の原生林)を解凍できる場所がある。運転手にお願ひすれば鉄道の便員をはかってくれ、進行方向右下に見える。バスは国道355号と、湯科温泉ラインを1時間走ると、私のおすすりめコースの二つである。

特選コースガイド①

三方石観音から

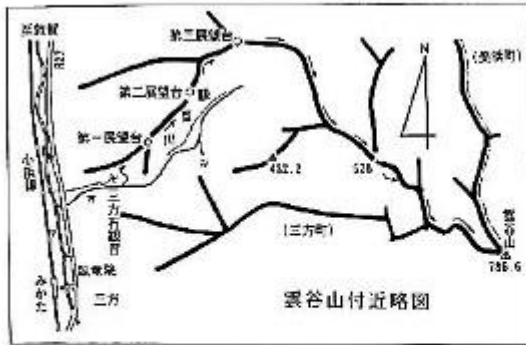
雲谷山

初級コース(★)
慶佐次 盛一

若狭

若狭といえは随分遠い所に見えるが、案外大阪から日帰りの山が楽しめる所でもある。若狭の正面には日本海の青い海が広がっており、背後には近江、月夜にまたがるしづい山並みが連なる。古代は大津文化が真っ先に流入する地でもあり、日本海側が豊日本でもあった。したがって由緒ある神社仏閣も多い。ここでは弘法大師にまつわる三方石観音を訪ね、雲谷山へ登るコースを紹介しよう。

展望の駅はJR小浜線三方駅だが、大阪早明寺、青森16まで利用で米原から北陸線を経山すれば費用は安くつく。費用をいとなければ、湖西線経由の特急利用で大阪をゆつくり発着。またマイカー利用も



雲谷山村近路図

同じ展望を楽しむなら第三展望台が一番いいから、休憩もそこそこにして第三展望台へ登ろう。

約1時間足らずで第三展望台に行く。展望台といってもなんの施設もなく、伐採した木い束をベンチがわりにしただけのものだが、北側の展望は抜群。日本海が汪洋と広がり、眼下に三方五湖の三方湖、菅湖、水日湖が望み、行き交う船が見える。正面に梅文岳、西に久須夜ヶ岳、更に西へ目を移すと近々雲菜山も見える。大阪早御堂ならこの辺りで昼食タイムとなる。山道といっても、山頂まではさきりした踏み跡の続く一本道で迷うことはないだろう。しばらく緩急を繰り返すと右側が伏拝地となり、聖徳太子の山並みが見える。美しい景におおわれたのは早御堂は神様が連なり、ここが頂上なのか判断がつかぬ山並みだ。

麓から山に向きはじめると松の樹間から三方五湖が覗き、さらさら涼風が吹き上げてくる。ススキが道をおおふ所もあるが、あくまでも踏み跡はしっかりしている。しかし、すべりやすい葉で肌を傷つけないように、また夏は大型のゴミがあるから、できるだけ素肌をさらさないように注意しよう。登りの傾斜はゆるいが、結構登り下りが

登路から雲谷山方面を望む



(近くは平成5年10月に開墾された) これから先のコースに水場はないから、境内の手水でしっから補給しておこう。本堂の横に「展望台」の道標があり、そこから雲谷山へ向かう。シダダに折れた遊歩道が続き、第一展望台に着く。

三方五湖の展望が一挙に広がる。展望にみとれて思わず時を過すしがちになるが、第二展望台も同じような景観が広がるし、

別子銅山の歴史を秘める

東赤石山

中級コース(★★★) 尾野 益大

赤石山系は法皇山脈の一部をいい、文字通り赤茶けた岩壁の峻に覆われた峻険な連なりである。四国の山岳特有の、なだらかなのでめったりとしたササのスクロップはここにはない。瀬戸内海を眼下に望むビューポイントとして、またかつて三百年の採銅の歴史を誇る「別子銅山」観光と銘うたって、一度は訪ねてみたい静かな山々だ。

アプローチは、白雲洞平かタクシーに頼るのがいだろう。JR予讃本線・せまがわ駅から少し西側に走って、国道11号と合流し、しばらく松山方面に走ると左手に「東赤石山登山口」と書かれた木製の道標を見つけることができる。ここから南に道路をとり、すぐに四国自動車道をくぐる。あとは関川に沿って林道を奥へ奥へと入って行く。くねくねとした細い道で、後半は狭いうえに舗装がとぎれとぎれに変わる。車の音が鈍い音を発して振るのを気にしながらの運転は、この上なくストレスを溜積する。それでもおよそ30分から40分も我慢すれば、植栽を間近に望む広場に達する。立派な遊歩道が立つ登り口である。

初めから急な斜面で息が上がるが、電杖の踏み跡は植林の中のおくく入られた道で何の心配もいらない。人工林がなくなると、その辺りからひっきりしかりした道が尾根の西側に延びてくる。コケむした大岩が突然現れて驚かされることもしばしばだ。木道が折々ところに出てくるが、滑らないように注意したい。ちよっぴり周辺の風景が得られる。意外にも多いシヤクナゲの大木を目の前にして「今度仲間と初夏の頃に来

赤石越から八巻山に連なる峻険



て花見を楽しもう」と心に決める。九十九折りを過ぎ、足根の東側に回り込む。まもなく「氷穴」へ続く分岐点に至る。6月ごろまで雪が残っているのだそうだが、木で覆った斜面は朽ちたのも流じていて、その上をコケが覆っていて大岩が滑りやすい。腹見をせず足元に視線を集中したい。やがて阿が祀られた明るく小さな広場に出る。東に向かって踏み跡が見えるが、恐らく敵

山跡へ歩いていくものだろう。阿を左に見て林の中へ入る。相変わらず踏み跡はしっかりと刻まれているが、岩がゴロゴロするようになり歩きにくくなる。それに徐々に傾斜が著しくしてきて、いよいよ住居に入らなことを問わねはするものも、アプが出るほどしんどくなる。いったん樹林が切れ、石垣の築かれた区画敷地に出る。壁大を突く頭上の赤色の岩壁を眺めて、「ああ、このすくたな」とつぶやいてくれているようので元気がでる。さて最後は、暗い森林の



下の、木の根と石が絡まる合った急坂だ。歯を食いしばってがむしやらに進むと、いよいよ待ちに待った赤石越である。山系中の峠では最も高い高度を誇っている。

ここに来て初めて四面の別子村を見下ろすことができる。このところの荘園のせいりで、半壊した別子タムの欄干がなんとなく刻みを失って見える。北面よりも南斜面の樹林が乏しいのは、景像のせいなのだろうか。赤石山系の清水峠は、渠を精製するとさき登りから出る並道がガスによって一度枯れてしまったのだともいわれているが、あるいはその影響が現在も残っているのかもしれない。心掛けないと傾斜を誤って行く。一眼のあと、山頂を目指す。東へ傾のトンネルを二分で果敢なく到着する。銅の成分を含む緑色の岩は骨りにくいとされるが、前折して怪はないよう注意したい。

切り落ちた尾元の断崖から時折ヒューッとガスが立ちのぼってきて、体にまとわりつく。この上には高い山の気分だ。ぐるり見渡すと風景も格別だ。新田派の街の向こうに瀬戸内海が鏡のように輝いている。時には中国山地まで肉眼でとらえられる。納得いくまで楽しんでから、赤石越まで引き返し、ついでに日と峠の先にある八巻

山まで足を延ばそう。北アルプスと思わせる岩壁地帯である。峻険を山奥に連れれば、30分ほどで山頂に立つことができる。四国ではここしかない新少なコケモモがひっそりと生息している。さき登った東赤石が手の届くくらいに近く、その左に崩現山が見える。振り返れば法皇山前赤石の尖峰や、ずと元には雄姿を西赤石が誇っている。遊々峰もわずかに顔を見せている。西赤石山の周辺の方は、こちらよりも銅山跡の風物が多く残っており、麓には資料館や温泉などもある。通年営業の山小屋「新山荘トロッポ」も中腹にある。

復路は来た道を戻そう。上部ほど岩が露出していて滑りやすい。ゆっくりに歩いて1時間半もあれば車に乗り遅れよう。

▲コースタイム▼

- JRせまがわ駅(車道分)登山口(30分)
- 大石のある平地(時間40分)阿(1時間)
- 赤石越(5分)東赤石山(5分)赤石越(30分)八巻山(30分)赤石越(30分)阿(50分)平水(20分)登山口
- ▲地形図▼5万1新地図

2等三角点のある山

須留ヶ峰

中級コース(★)

山形 蔵之

旧居の須留ヶ峰(1033.3m)は登山コースの資料が豊富で、2万6千の大屋市編の地形図を見ても、朝米町の方から山麓に林道が伸びている。そこで町役場に立ち寄って登山道の有無を確かめると、「地図にある林道は個人会社の所有で、しかも不動産から先は不通になっている。又その先登れるかどうかは分からない。須留ヶ峰には大屋町の方から登っていますよ」との話し、神子畑から管形トンネルを抜けて明延鉱山へと大きく迂回し、大屋町の宮木のバス停に車を上げる。

その如く愚作装束をしている人に須留ヶ峰の登路を尋ねると、「地図にある林道は古風災害で閉れて車は通れないが、歩いて

登るのは問題なく、山頂まで登山道もあります。又明延の方からも登れますよ」との返事。バス停の入り口にも古びた須留ヶ峰登山口の道標が立っていた。

宮木のバス停から、5分入ると右手が削れた林道の分岐点で、目の前には堰堤が見えている。壊れた小橋の区間が残っていて、ここに「大杉山」の須留ヶ峰と、この道標を立てかけられていた。

林道はとても車の入れる状態ではなく、ここに車を置く。堰堤の左側を乗り越すと沢を渡って右側の林道に取りつく。もう林道は地形もなくわずかにそれらしさを留めるのみ。次の堰堤で左側に上がると又林道が細く、ともかく歩くには差しつかえない。と、目の前に堰の角が落ちて、短いのでまだ幼い脚の物らしいが、降りたまもと道標に因っていく。

林道は崖側で垣まわっている所もあるが、踏み跡が続いていて迷うほどのことはない。又他の角が落ちていて、よく見ると先程の物と対になっているようだ。これは良いものを見つけた。降りには忘れず持ちかえらうと道標の目立つ岩の上に置いておく。四つ目の堰堤を過ぎると道は不明瞭になるが、沢と離れずに進むとやがて沢は狭ま



大杉山の杉

り、その先に落差10mほどの流が見えてくる。ここで道は大きく右にカーブして尾根へと登っていく。

沢沿いは荒れていたが、堰堤の横道はしっかりして歩いて歩きやすくなる。シグザクに高度を上げると宮本あたりで集積が眼下に広がる。地図通りのカーブを数えながら行くうちに林道終点に着いた。古びた標板を立て、ここから登山道が始まる。大杉山までは少しばかり急登で、汗かきれる。登りついた大杉山は明るく開けて一体感をもってこいだ。須留ヶ峰は水陰から半分顔を出して穏やかな姿をしていた。

山頂下の緑芝の先に、首降もくろむ杉の大木が立並んでいる。当然大杉山の山名は、この杉の木から名付けられたのだろう。又二角点の山名「大杉」、この杉の木からきているのは間違いのないと思った。

入しがない。平成6年の記人は「例しかなく、13月1日(旧暦)と書かれていた。登山者は少ないようである。

どこかで鹿の鳴く音がする。そういえば登山中四、五度、鹿の走り去る姿をみた。下山時、拾った鹿の角を採しながら行く。しかしどうしても一本しか見つからなかった。

宮本のバス停に戻って調べると、「大杉山



須留ヶ峰 2等三角点



陸線の八幡駅から明延まで全但バスが走っている。大体1時間半に一本くらいあり、マイカーでなければ、田淵からの縦走の方が面白いだろう。

関西方面からの日帰りでマイカー利用になるが、時間があれば大屋町までの天流を見に行くのもよい。「日本の標高」に入っていて、1000に近い落差に、数分後で見える雄株の糸を捻ったように白糸の瀑布が広がるさまは、一見の価値がある。もっとも30分程度歩かねばならないが。

☆コースタイム☆

大坂(車3時間30分) 宮本の林道登山口(40分) 沢から尾根への取りつき点(1時間10分) 林道終点(40分) 大杉山(20分) 須留ヶ峰
△地形図▽2万3千11大屋市編
20万1紙路

生野高原を歩く

段方峰とフトウガ峰

初級コース(★) 村田 智俊

一回、ススキやササに覆われた草原を歩いてみたいと思ふことはありませんか。段方峰からフトウガ峰にかけての高原一帯は、それこそ見渡すかぎりの広い草原が続き、その風景を堪能させてくれる。

播磨には、ササに覆われた草原伏の山が多い。千ガ峰、坂ノ峰、峰山など、峰のつく山々がそろうである。その中でもスケールの大きさは、生野高原といわれるこの段方峰からフトウガ峰にかけてがダントツである。とりわけ晩秋には爽やかな高原歩きが楽しめる。

登山口の駅前へは、JR播磨線生野駅発8時21分と9時21分のバスがあり、「高原口」で下車する。駅をタクシーで林道の

奥まで入れれば時間の短縮になる。バス停に「千町峠・段方峰」と書かれた立派な道標がある。舗装された河の道を行く。10分でコンクリート橋を渡ると地蔵の林道になる。道幅も狭くなり、バス停から約40分も歩くと登山分岐に到着。道標がある。林道を右進すると、段方峰とフトウガ峰の鞍部につきまいる「遊コース」になる。一般登山道は、左の山道を歩もう。

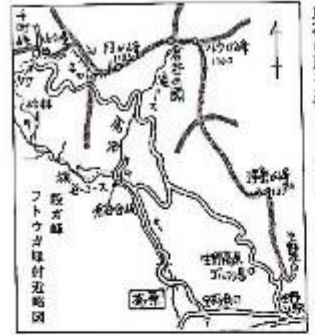
すぐに急谷を渡るが、橋が落ちているので手を置いて徒歩することになる。ここはよい沐浴場になっている。谷を徒歩すると右によい道が延びているが、この道は間違いない。正解は、左に曲がり橋の壊れているところの延長線の道岔道に出ること。

しばらくは、荒れた谷に沿って岩の多い道を行くが、やがて谷も落ち着き、踏み跡もはっきりしてくる。広葉樹が茂り紅葉の色はきれいだろう。阿波も本流や支谷を渡り急な谷道進む。テープが適当にあって送うことはない。奥へ進むと杉林の中に入っていく。勾配もやや急になるがワグワグと切つてあるので意外に楽。分岐から1時間かすると、ササが現れて谷も細くなり、千町峠が近くなる。雪丈ほどのササ原をかき分けて行くと、ひっきりと林道に飛び、



段方峰からフトウガ峰を望む

出る。ここが千町峠で、「段方山荘」と書かれた立派な山小屋が建っている。ここから段方峰まで約20分、よく整備された道を歩くと、展望のよい林道に出る。後縁につけられた登山道を辿り、北側はすっかり伐採されて杉の苗木が植えられ、成長したばかりの点景となっている。やがて高原の一角に帯いた。北方に播磨の山々が一望でき、開放感が一気に広がってくる。汗した体を吹きぬける風が心地よい。周囲は自然林になって、equalのネットが張ってある。二、三ヶ所そのネットをはずしながら通過する。通過した後はまた元に戻しておくこと。緩やかに登って行く、やがて小高いピークから段方峰(1100m)の山頂が指母ス眺められ、あつという間に霞が下りてしまふ。



かなピークに登り、左に回り込んで行く。フトウガ峰(1100m)だ。振り返ると段方峰が遠くに見える。ここも一面ササの原、眺められる草原は段方峰より広々と感じられるほどだ。下山口の「国民宿舎」生野荘」まではここから約1時間30分も歩いておけばよい。時間のゆるすかぎり展望を楽しみたい。寝ている人はひとときの午睡をわきまればよい。心が完全に空白になってくるだろう。山に登ったというより、高原を歩いた心地よさに酔わされる程の開放感に満たされてくる。さて「生野荘」への下山はかかる。やがて草原の道から松林の尾根道に変化してくる。いったん下り、また登る。こんな登り下りを繰り返しながら、徐々に草原を下り、クリ・クヌギなどの自然林の中をよい道が続いている。樹皮を履き食べられた木が目につく。あるところではかなりが立ち枯れになっていて、びっけりきまられる。先のネットとい、この山にはかなりの腐がいも思われる。

前方がまた草原になってくる。遊歩道が峰(3等912.7m)である。先程まで戻った段方峰やフトウガ峰の草原が遙か後方に見える。最後の展望を楽しんで急坂を下ると「生野荘」に出る。生野駅へはタクシーを呼ぶか、また元氣な人は歩いて1時間だ。バスは朝陽発18時25分と18時30分がある。(平成6年8月21日歩く)

- △コースタイム▽
・R生野駅(バス5分)→高原口(40分)→谷分岐(1時間30分)→千町峠(20分)→段方峰(40分)→フトウガ峰(1時間)→遊歩道(20分)→生野荘(1時間)→生野駅
△遊歩道▽
5万川生野 生野駅
○マイカー利用が便利。中国産補助インテリから普通道で生野駅まで約30分。インターの出口を右折して、播原までは10分。京阪神からだ、JRやバスを利用しての日程は長い。前後「生野荘」で泊まっておく(やまぐり)がよい。
Owagayama 1泊2食 6000円

連載

山岳夜話 (第6回)

小泉 誓純

洛中慕情 (二)

「ライスメキの疑念、『哲学の道』を頼り手まで感服してみることにしよう、道標に導かれてルートに、取り付く。」

「はる野い気分歩きながら、まったくの冗談で、」少しは哲学の話でもしようか」と言ふと、意外にも、彼女は物語でも聞けるような口調で「うん、してえ」と応えた。ぼくは「同じ合若うか」といふと、彼女は「たのだが、冗談であることも、」同じ合う」といふ意味でも通じなかつたようだ。

まあいいや、と思いつながら、ぼくはエピソードの快楽主義について語り(入)して知っているわけもないのだが、彼は唯物論者ではあるが、彼の快楽主義はあきらかに利耶主義あるいは道楽主義でもなければ、現

今の世にはびこっているようなあさましくも底意正な物欲汚染主義、ひいては拝金主義でもない点を指摘した。

彼女が「今はもっと単純に日常的に、悪い意味での快楽主義者であることを、学生なんかはエビキョリヤンって言うのよ」

「ハハハハ。ナン後で遊んでナン学生は聖賢の杖なんてのは、まだ案外でカワイゲもあって、足らぬがあるけど、そんなモノは一級教習科目のアキストを一冊ナメに読んでアママイ00点をチョウタイしたきりで、あとは清原で三に取って、ハラハラとやってみたことすらないタイプが多いんじゃないかな、今は」

「私は哲学は取らなかつたけど、少しばかりは読んだことがあるところかな」
「彼の毒舌をもう少し思い出ししてみるとね、彼は」マウソン主義者たちが考えるように、

から柄姿を追い出すことのできない医学には何の取柄もないように、精神の苦しみを追い出すことのできない哲学者には、何の取柄もない」とも主張しているんだ。二千年以上も前だね。しかし、個人の快楽の追求と社会協同性との間の問題については、彼既した論述に欠けているようだ。現代人にとつて、いやそのころでも、それは大きな問題だったとぼくは思うんだけどね」

途中一度ベンチに腰掛けたあと、久しぶりでお隣寺の中へも入ってみた。金どかの金閣よりも、こちらのほうがぼくには好きだ。スケールの点でやや物足りない感がある。

「今日あなたが来てくれることになったから、明日の朝の新幹線に乗ることにしたの。だから、時間のことには気にしてくれなくていいのよ」

「じゃあお昼メンもゆっくりと食べられるねえ、昼は精進料理だったから、晩は動物性蛋白質もさることな、キミは若いんだから、ただし、勝手に言うけど、フランス料理はバスタジ、キミは好きじゃないんだ。スペインやイタリア料理は、何となく日本の南国もあって、まあ食べるんだってね」
「通り帰ったあ、緑地に腰掛けて、

僕は少しばかり得意になった。

「昔はこの辺りに車道が走っていたね、銀閣寺車とか北白川という修験道があったんだ。その北白川の修験道の近くに、中学時代に机を並べて以来の、高校も一緒だった親友が下宿していて、よくそこに泊まったもんだ。東京から、休めたりきぼぼって帰って来たときなどにね、教も柔道部の用事なんかで東京へ出て来たときには、ぼくの下宿によく泊まっていた。」

そのころに、初年ほども前のことだけど、この銀閣寺の辺りから、ヤッコさんと二人で、お互いに下駄ばきで比叡山に登ったことがあったなあ。今もその道があると想うんだけど、地図を見なけりゃわからない」

「なぜ下駄ばきだったの？」
「その日は山に登る気なんか全然なくて、散歩で百万石辺りへパチンコに出かけたときのことだった。たと思っただけで、偶然に比叡山の道標でも見つけて、意のままの気になっただけかな。」

そのころはぼくも、よく下駄ばきで市道をマロウロしていたもんだし、河原町三条かいわいで遅くまで飲んでいて、市電はもうないし、タクシー代なんか持ってないし、時々は歩いて、下宿まで歩く気心

死なることによって意識が高貴な生活に移行するのであるとすれば、人々はみんな死を喜ぶべきであるのに、人々は決して喜ばない」と指摘しているんだけど、これはなかなかオモシロイ。

そして「死を恐れるのは無を恐れるのではない。生命の觀念と無の觀念とを無意識のうちに結びつけてしまっているからだ。しかし、生命と虚無になることを明確に切りはなして考えれば、死は死んだ人にとつても、生きている人にとつても、異様ではない。生きている人にとつては、死は来ていないのだから、死はないのである。そして死んだときには、我々は生きていないのだから死の自覚はない。つまり死の実感というものはあり得ないのである。だから恐怖というものはないはずである。死の恐怖によって生命の幸福が妨げられてはならない」というようなことから快楽が最高の善となったワケなんだ。

しかし一方では、肉体的な快楽に迷わず、永続する静寂な精神の樂しみが真の善であり、そのためには、我々はすべての過度を抑えなければならない」とも言い、むなししいのは、人間の苦しみを治すことのできない哲学者の言葉である。なぜならば、身体

なく、八坂神社の境内でビバークしたこと

も何便かあったくらいだから」

「アハハハ」

「そのあとがさらにイケナイこともあったなあ、ハハハハ。夏後に下宿で目が覚めて、お互いの全財産を出し合ってみると、ナントは同じかなくなつたんだ。これじゃあすぐ近くのヤッコさんの学校でカレーライスを食うこともできやしない。何を食べたと思っ。フッフッフ」

「ウフフ……わたしが生まれる前のことだから、俺の豆飯が旨いっかない……」
「豆腐一丁が10円で、粗ネギ一束が5円だったんだ。それを冷凍パックにして、二人で食べたというわけさ。全然腹がふくれなかったねえ、ハハハハ」

「アハハハ、酒飲をしたパチが当たったのね。そのころの学生は、どんな娘で飲んでたの？」

「主に、いわゆる居酒屋とか、トリスバーや一ツカバーというカウンター辺りだったなあ。酒屋の店先で立ち飲みをしたことはなかった。そんなときはテイク・オフだったから。カネまわりのいいときは、居酒屋などのあと、アルサロ、これはキナバレーの安物みたいな娘なんだけど、そこへ繰り

水上に咲いた徒花 (一)

東京都で別れて10日はかりが過ぎた頃の五月中旬、彼女から分厚い郵便が届いた。フンゲル同好会時代の北極高での写真、卒業式当日のキャンパスでのもの。その後の礼文島でのものはかに、年月日順の彼女の登壇リストも入っていた。

多くの山への登勢は、山嵐としての彼女に感ずるものを与えたようだが、その他の多くの諸々の人間的個性もまた、女としての彼女に、図らずも父性的あるいは兄弟的存在以上のものを添ひにまわっていった。

晩年の夜、ぼくは夜更けや深夜釣りの楽しさについて話したが、質問のない限り、技術的なことには意識的に触れなかった。彼女が次に入って来る気になるとも思わなかったからだ。

だが意外にも手紙の文面には、「まったく経験のない私でも、あなたにつれて行ってもらえば習得するものなのではないでしょうか？もし読めるものなら、次は訳へつれて行ってほしいと思っております。やっぱりアコには無理でしょうか」とあった。だが、彼女は週日行動に興味を持っていたの

まくった。その中には、命中すると人形の女性のロング・スカートが踊りまわってまわってまわって、ぼくがそれに何故も命中させるものだから、彼女が笑って笑った。そしてその出たとき、彼女はあきれたまなこで、しかし楽しそうに顔で言った。「わんぱくっ子がそのまま大きくなったみたいなのがあるのね、あなたは、ウワッ……」

四谷河原町まで戻って祇園で夕食としたが、結局は和食ということになり、若い女性を連れたいアベックには不似合とも言えるキヤンコを食った。

すぐ近くにある、両脚へ行つたとき話々立ち寄る喫茶店「E」ではしばらく時間を過ごし、タクシーで彼女を五反田まで送る。「Rで大阪へ帰ろうとする、彼女はキムまで見送りに来た。

「来月にまた来たら、会える？」これは意外な言葉だった。だがうれしい言葉でもあった。ぼくのほうからは、そんなことを言える立場ではないだけに、余計にそう感じた。しかし彼女自身には、一瞬のことだが、躊躇もした。「……うん。何とかまたあった時間をつくるよ。またどこかへ登ろう」

出して、「一応は女を待たせて飲むというわけだ」

「居酒屋はともかく、そんな処で飲むのは高いんじゃない？」

「さあ、ぼくにとっては高いけど、たまたま、ダンスなどしながらの時間ほとんど居れば、二人で数時間……千円も取られることはなかったように思うけどね。それにしても、なにしろそのころの大卒の初任給が一万千円くらいだったからね」

「このあと本業の「映画制作」へ行く。ぼくがキヤンコとして、まずは一番に吉原へ行ってみたいので、彼女は笑った。

「この日は次連れで来る所じゃないんで、キヤンコ」

日本橋、伊達橋下階敷などを巡ったあと、道山の金さんが坐る場所に坐ってみたり、扇をいかりして片膝を立ててみたりしているぼくを、彼女はおもしろがって小型カメラで撮った。

後日送られて来たその写真の裏には、「五十円を盗んでこい」の戯言と書かれてあった。

最後は、西部劇の活劇を模した射撃場で、すばやく動くナラス(？)や棚の上のモトルなどに向かってぼくはライフルを撃ち

ではないようだった。それは彼女にとって、本当の自然へ到達するための必要手段にしかすぎないようだった。

ぼくは特に実務者が得意というところもないのだが、長大な難関の高い次の経験もあることなので、当方一人でヒギナリばかりを多岐なら困るが、彼女一人くらいなら沢さ進べば問題なしで、こちらもも充分に楽しむ余裕を持てるだろうと思った。

このような判断の結果、安心して彼に入ってもらえばよいと書き送り、最低必要な個人情報も付記しておいた。

すぐにまた領りが、今度は初めて会社に書いた、彼を利かせたつもりなのか、差出人の姓は本姓で、名は男の名になっていて、その内容は、ぼくの予想をはるかに超える、ぼくに与っては衝撃的なものだった。

「……赤テーブやゴキも無い、もちろん人間は誰も来ない原白然の中で、一級始人のように生きてみたい。沢のはとりに産むむすんであなたは魚を釣る、私は炊事洗濯。夜は焚火のまわりで魚を焼いてお酒を飲む。そばに温泉がわき出ていれはいいことなし——お金も時間も文字もない世界。そこであなたとずっと暮らさたらいいな。夢のような非現実的なお話。こんなことを考えて

いたら、私の社会情報はますますおくれそう。V o n d r e i n e r 愛丁」で長文は終わっていた。

ぼくは、台高の難関の無い、しかもめったに人に会わぬ山を巡り、目的の山域を沢を彼に伝えた。そして、一週間ほど考えて、彼女たちの関係は、ぼくにとてもまた男女関係であること、表面化させる決意をした。

彼女は会社へ電話してきて、「会社物のほうへ先に行ってくる。先にあなたと逢うと、あとで一人で行く気になれないからしれないから……。フラジや地下タビは箱りに東京で買ってくる」と口にした。

今幸駒から帰って来た彼女は、東武浅草駅と上野のキテルに次いで、京都市内のホテルから会社へ行動予定を知らせてきた。

「明日は一日休養したいから、このホテルにあと二泊して、わたしは明後日に出発できる。あなたは明後日からも大丈夫なの？あまり無理しないでね。仕事のほうも家のほうも、早く帰りたいけど、遅えなくなるよりは、待たされるほうがましなもの。」「二泊待たなきゃならないような、キースへ移るつもりなの？」「うん……まあ、なんかなさるよ。明後日

の11時に、近鉄の大和上市駅へ来てくれ。ぼくはあべの橋10時の特急で行く。南なる順だ。その場合は会社に行く。山の中で三泊するつもりだが、四泊分の食糧を調達しておくんだぞ、重くない物をね。ただし、米はぼくが二人分ずつで行く。生米をね、シャリはまともなものを食いたいし、少しの米をキミは買えないだろうか？」

「わかりました。何かあなたの好きなつまみを言ってみて。明日飯場に行くから」「キミに任せるよ。もちろんぼくも持っていくけど、酒はワイスキーと日本酒を持って行く。ビールは現地で買おう」

「日本酒も、わたしが紙財を持って行くけど……」

「アマゴの普通でも飲ませてやろうと思っただけ」

「あっ、そうなの。早く飲みたい！わたしにも釣りをさせてね」「ハハハ、アコに釣られてくれるような心やさしいアマゴがいらないんだけどねえ。まあ、やってみればいいじゃない。助手でもさせて頂こう、ハハハ」

わからないことがあれば、明日の5時までに会社へ連絡するように言って電話を切った。(次号へつづく)

山行計画

574キョクテツ

このページの山行計画は、「山行計画」としてあるは、合費外の方でも参加できます。一人ずつ往復八方半に記入の上、出発の7日前までに到着するように届けてください。時間上は必ず往復参加費その他の費用は参加費を頂くこととなります。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。

参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。

(記入用)
(往復ハガキを使用)

山行申し込み書

山行 期日 住所 〒 電話番号 氏名 会員番号 (会員でない方は会外と記入) 生年月日 緊急時の連絡先

返信用ハガキの宛先を名刺で、このページの住所氏名を記入してください。

地蔵峠山行

富士山の南麓(二股間) (新ハゲ西支地方) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

申し込み 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 費用 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

申し込み 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 費用 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

あハガキに記入のこと

あハガキに記入のこと。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。

あハガキに記入のこと。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。

あハガキに記入のこと。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。参加費は、本誌の発行後、お申し込みの届いた場合は、必ずお送りいたします。

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代) 地蔵峠山行(二股間) 11月3日(日) 集合 地蔵峠(新ハゲ西支地方) 費用 約7000円(バス代) 地図 約7000円(バス代) 申し込み 約7000円(バス代)

